

県民世論調査

阿部県政 5 期目

報告書

（2026年8月25日～9月11日調査）

I	目的・設計・回答状況	1
II	調査結果	
	（i）単純集計	4
	（ii）概要	8
	（iii）集計表	35
	（iv）「その他」の回答	70
III	調査票	72



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<https://www.nagano-yoron.or.jp>

本ホームページでは、報告書の一部を抜粋して掲載しています。長野県世論調査協会の会員の皆様には、報告書を郵送・電子メールでお届けしており、全ての調査結果をご覧いただくことができます。入会のお問い合わせは、[こちら](#)へどうぞ

I 目的・設計・回答状況

◆ 目 的

任期満了に伴う長野県知事選挙は8月9日に投開票が行われ、現職の阿部守一氏が5回目の当選を果たしました。2010年の初当選以来、4期16年務めてきた阿部知事による県政運営に対し、有権者はどのような評価を下して今回の審判に臨み、新たにスタートする5期目の県政にどのような将来像を託したのかが注目されます。本県は人口減少や深刻な担い手不足、長引く物価高、医療・介護体制の確保など、多くの課題に直面しています。

今回の選挙は、現職の阿部氏と新人の武田良介氏による一騎打ちとなりました。本調査は、投開票後に、有権者の暮らしの実感や重点政策への評価、知事に求める資質などを探り、5期目を迎えた阿部県政のあり方と長野県の進むべき方向を考えるための基礎資料とすることを目的に実施しました。

◆ 設 計

- ▽調査時期 2026（令和8）年8月25日（調査票発送）～9月11日（投函締め切り）
- ▽調査対象 長野県内に住む18歳以上の男女1,000人
- ▽抽出方法 層化三段無作為抽出法。市町村の選挙人名簿から無作為抽出
- ▽調査地点 19市5町6村の計30市町村
- ▽調査方法 郵送方式。調査票を郵送し、回答は郵送、インターネット、ファクスで回収

◆ 回答状況

▽有効回答 656人（男性299人 女性341人 その他・回答しない16人）

▽回 答 率 65.6%

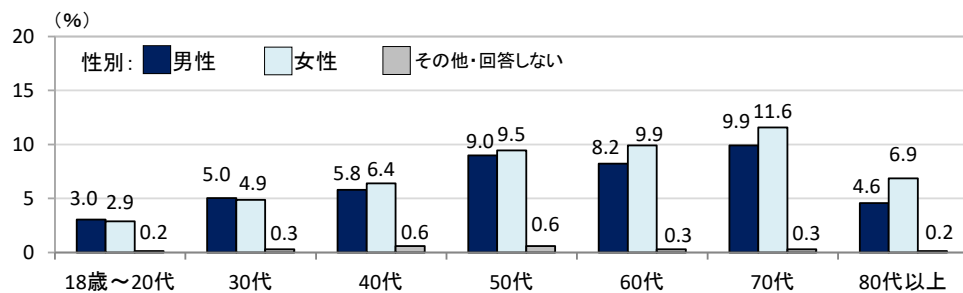
- [回収方法別の内訳]（ ）内は比率
- ・ 郵送 423人（64.5%）
 - ・ インターネット 211人（32.2%）
 - ・ ファクス 22人（3.4%）

【注】本報告書のパーセント数字は小数点第二位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

有効回答の内訳

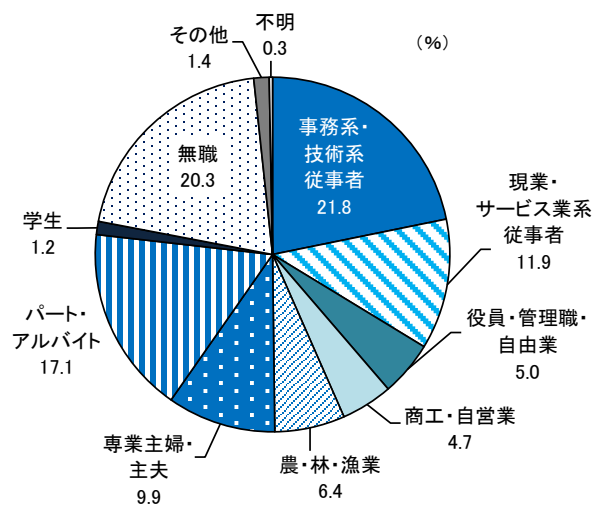
【年代と性別】

		合計	18歳～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
全体	(人)	656	40	67	84	125	121	143	76
	(%)	100.0	6.1	10.2	12.8	19.1	18.4	21.8	11.6
性別	男性	(人)	299	20	33	38	59	54	30
		(%)	45.6	3.0	5.0	5.8	9.0	8.2	4.6
	女性	(人)	341	19	32	42	62	65	45
		(%)	52.0	2.9	4.9	6.4	9.5	9.9	11.6
	その他・回答しない	(人)	16	1	2	4	4	2	1
		(%)	2.4	0.2	0.3	0.6	0.6	0.3	0.2



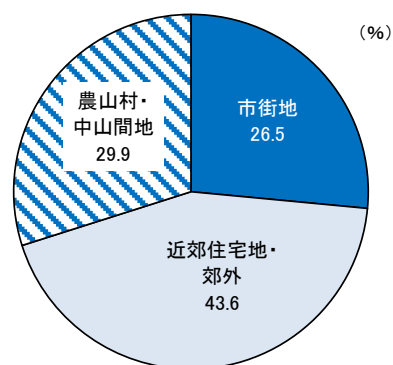
【職業】

	(人)	(%)
事務系・技術系従事者	143	21.8
現業・サービス業系従事者	78	11.9
役員・管理職・自由業	33	5.0
商工・自営業	31	4.7
農・林・漁業	42	6.4
専業主婦・主夫	65	9.9
パート・アルバイト	112	17.1
学生	8	1.2
無職	133	20.3
その他	9	1.4
不明	2	0.3
全体	656	100.0

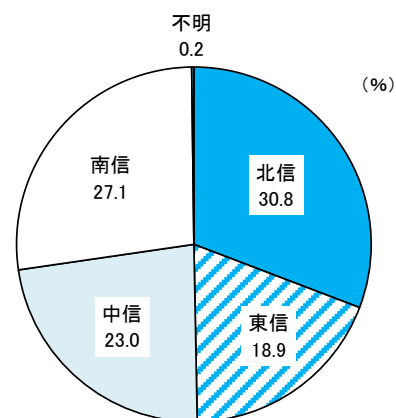


【地域性】

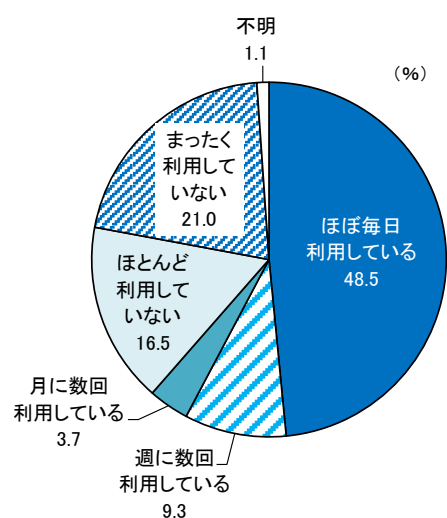
市街地	174	26.5
近郊住宅地・郊外	286	43.6
農山村・中山間地	196	29.9
全体	656	100.0



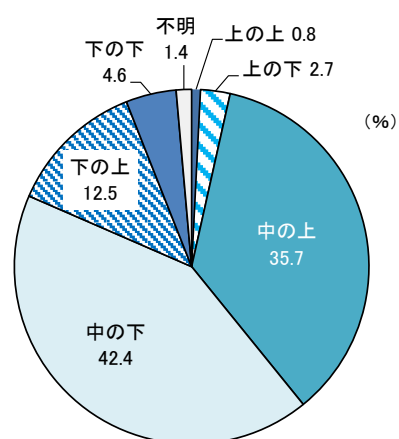
【地域】	(人)	(%)
北信	202	30.8
東信	124	18.9
中信	151	23.0
南信	178	27.1
不明	1	0.2
全体	656	100.0



【SNSの利用頻度】	(人)	(%)
ほぼ毎日利用している	318	48.5
週に数回利用している	61	9.3
月に数回利用している	24	3.7
ほとんど利用していない	108	16.5
まったく利用していない	138	21.0
不明	7	1.1
全体	656	100.0



【暮らし向き】	(人)	(%)
上の上	5	0.8
上の下	18	2.7
中の上	234	35.7
中の下	278	42.4
下の上	82	12.5
下の下	30	4.6
不明	9	1.4
全体	656	100.0



Ⅱ 調査結果

(ⅰ) 単純集計

問1 あなたは、今回の知事選の結果について、どのように受け止めていますか。

	(人)	(%)
・かなり満足	149	22.7
・まあ満足	328	50.0
・やや不満足	42	6.4
・かなり不満足	11	1.7
・何とも言えない・わからない	122	18.6
・不明	4	0.6

問2 あなたは、今回の知事選で投票に行きましたか。

	(人)	(%)
・行った(期日前を含む)	403	61.4
・行かなかった	227	34.6
・答えたくない	25	3.8
・不明	1	0.2

問3 (問2で「行った(期日前を含む)」とお答えの方にお尋ねします) 誰に投票しましたか。

	(人)	(%)
・阿部 守一 氏	347	86.1
・武田 良介 氏	33	8.2
・答えたくない	21	5.2
・不明	2	0.5

問4 (問2で「行った(期日前を含む)」とお答えの方にお尋ねします) あなたが今回、投票する候補者を決める際、最も「決め手」になったのは何ですか。

	(人)	(%)
・候補者のこれまでの実績・経験	265	65.8
・候補者の人柄・イメージ	43	10.7
・候補者の公約・政策内容	35	8.7
・多選(長期政権)への懸念・是非	22	5.5
・候補者の所属政党や支援団体	13	3.2
・演説や SNS での発信	4	1.0
・その他	10	2.5
・何とも言えない・わからない	10	2.5
・不明	1	0.2

問5 (問2で「行かなかった」とお答えの方にお尋ねします) 投票に行かなかった理由は何ですか。最もあてはまるものをお答えください。

	(人)	(%)
・選挙結果が予想できたから	105	46.3
・仕事、私用、体調などで行けなかった	74	32.6
・県政にそもそも関心がないから	17	7.5
・投票したい候補がいなかった	10	4.4
・争点や政策の違いが分かりにくかった	3	1.3
・その他	12	5.3
・答えたくない	1	0.4
・不明	5	2.2

問6 今回の知事選を通じて、あなたが特に重要だと感じた政策分野はどれですか。次の中から3つまで選んでください。

	(人)	(%)
・物価高・生活支援	403	61.4
・医療・介護	326	49.7
・雇用・賃上げ・地域経済	213	32.5
・子育て・少子化対策	194	29.6
・防災・災害対策	163	24.8
・人口減少対策	126	19.2
・公共交通対策	92	14.0
・農林業振興	73	11.1
・教育・高校改革	55	8.4
・防犯対策	31	4.7
・多文化共生・外国人政策	30	4.6
・行財政改革	29	4.4
・観光振興	28	4.3
・脱炭素・環境政策	24	3.7
・その他	4	0.6
・特にない	21	3.2
・何とも言えない・わからない	11	1.7
・不明	2	0.3

問7 あなたは、現在の長野県政を身近に感じていますか。

	(人)	(%)
・非常に身近に感じる	23	3.5
・ある程度身近に感じる	238	36.3
・あまり身近に感じない	261	39.8
・まったく身近に感じない	56	8.5
・何とも言えない・わからない	75	11.4
・不明	3	0.5

問8 現在の長野県内での暮らし向きについて、あなたの実感に近いものを選んでください。

	(人)	(%)
・とても良い	50	7.6
・ある程度良い	398	60.7
・あまり良くない	125	19.1
・まったく良くない	12	1.8
・何とも言えない・わからない	69	10.5
・不明	2	0.3

問9 県内の雇用情勢や賃上げの動きについて、あなた自身の周囲で変化を感じますか。

	(人)	(%)
・賃上げの動きはあるが、物価高に追いついていないと感じる	356	54.3
・賃上げや景気回復の実感はまだくない	204	31.1
・賃上げや待遇改善が進んでいると感じる	19	2.9
・何とも言えない・わからない	75	11.4
・不明	2	0.3

問10 長野県の将来や地域の課題について、あなたは以下の事柄にどの程度不安を感じていますか。あてはまるものを2つまで選んでください。

	(人)	(%)
・長引く物価高による生活の維持	343	52.3
・人口減少や地域の担い手不足	282	43.0
・大規模な地震や豪雨災害への備え	180	27.4
・路線バスや鉄道など、公共交通の衰退	146	22.3
・地域医療の維持	140	21.3
・道路や上下水道などのインフラ整備	87	13.3
・熊など野生鳥獣による被害	84	12.8
・不安は感じない	3	0.5
・何とも言えない・わからない	4	0.6
・不明	4	0.6

問11 次に挙げる長野県の課題や施策の現状を、あなたは評価しますか。評価しませんか。A～K それぞれにつき該当する番号に○印を付けてください。

A 人口減少対策(若者流出、担い手不足への対応など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	17	2.6
・ある程度評価する	154	23.5
・あまり評価しない	255	38.9
・まったく評価しない	52	7.9
・何とも言えない・わからない	166	25.3
・不明	12	1.8

B 物価高対策や生活支援策(価格高騰対策、ガソリン価格への対応など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	24	3.7
・ある程度評価する	225	34.3
・あまり評価しない	251	38.3
・まったく評価しない	85	13.0
・何とも言えない・わからない	62	9.5
・不明	9	1.4

C 医療・介護体制の確保(地域医療、医師不足の解消など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	21	3.2
・ある程度評価する	232	35.4
・あまり評価しない	228	34.8
・まったく評価しない	45	6.9
・何とも言えない・わからない	120	18.3
・不明	10	1.5

D 公共交通維持の取り組み(路線バスの減便・廃止、鉄道存続協議など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	18	2.7
・ある程度評価する	175	26.7
・あまり評価しない	255	38.9
・まったく評価しない	68	10.4
・何とも言えない・わからない	130	19.8
・不明	10	1.5

E 防災・減災対策(大規模地震への備え、避難所の環境など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	19	2.9
・ある程度評価する	265	40.4
・あまり評価しない	186	28.4
・まったく評価しない	43	6.6
・何とも言えない・わからない	133	20.3
・不明	10	1.5

F 産業振興や地域経済政策(中小企業支援、賃上げへの対応など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	11	1.7
・ある程度評価する	166	25.3
・あまり評価しない	214	32.6
・まったく評価しない	65	9.9
・何とも言えない・わからない	186	28.4
・不明	14	2.1

G 県政運営の透明性や説明責任(県民への説明、情報公開など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	22	3.4
・ある程度評価する	262	39.9
・あまり評価しない	164	25.0
・まったく評価しない	48	7.3
・何とも言えない・わからない	149	22.7
・不明	11	1.7

H 野生鳥獣対策(熊などの人里出没への対応、被害防止対策など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	19	2.9
・ある程度評価する	237	36.1
・あまり評価しない	202	30.8
・まったく評価しない	47	7.2
・何とも言えない・わからない	140	21.3
・不明	11	1.7

I 学校給食費の負担軽減(給食無償化に向けた市町村支援、制度設計など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	46	7.0
・ある程度評価する	277	42.2
・あまり評価しない	96	14.6
・まったく評価しない	28	4.3
・何とも言えない・わからない	198	30.2
・不明	11	1.7

J 男女共同参画・ジェンダー平等(格差解消、女性リーダーの育成など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	16	2.4
・ある程度評価する	199	30.3
・あまり評価しない	146	22.3
・まったく評価しない	39	5.9
・何とも言えない・わからない	245	37.3
・不明	11	1.7

K 観光振興と受け入れ態勢の整備(観光地の利便性向上、インバウンドの誘客、オーバーツーリズムへの対応など)

	(人)	(%)
・大いに評価する	26	4.0
・ある程度評価する	265	40.4
・あまり評価しない	147	22.4
・まったく評価しない	32	4.9
・何とも言えない・わからない	177	27.0
・不明	9	1.4

問12 公立高校の再編や統合についての考えに近いものはどれですか。

	(人)	(%)
・一定の再編はやむを得ない	389	59.3
・地域の高校をできるだけ維持すべき	148	22.6
・統合・再編を積極的に進めるべき	47	7.2
・何とも言えない・わからない	70	10.7
・不明	2	0.3

問13 長野県は今年6月から、観光振興の財源を確保するために、宿泊施設の利用者に課税する「宿泊税」制度を導入しました。税額は1人1泊 200 円で、5年間で約108 億円の税収を見込んでいます。あなたは、この宿泊税の導入について、どのように考えていますか。

	(人)	(%)
・支持する	284	43.3
・どちらかと言えば支持する	265	40.4
・どちらかと言えば支持しない	38	5.8
・支持しない	11	1.7
・何とも言えない・わからない	56	8.5
・不明	2	0.3

問14 ゼロカーボン政策(再生可能エネルギーの導入拡大等)について、あなたの考えはどれですか。

	(人)	(%)
・負担とのバランスを取りながら進めるべき	336	51.2
・生活負担を優先し慎重に進めるべき	133	20.3
・多少負担が増えても積極的に進めるべき	112	17.1
・何とも言えない・わからない	72	11.0
・不明	3	0.5

問15 外国人労働者の受け入れについて、あなたの考えに近いものはどれですか。

	(人)	(%)
・一定のルール整備を前提に受け入れるべき	345	52.6
・受け入れは慎重に進めるべき	191	29.1
・受け入れを増やすべきではない	59	9.0
・地域社会の担い手として積極的に受け入れるべき	31	4.7
・何とも言えない・わからない	29	4.4
・不明	1	0.2

問16 県内の公共交通の維持について、県は今後どのような姿勢で取り組むべきだと思いますか。

	(人)	(%)
・利用実態に合わせ、デマンド交通や新技術(自動運転等)への転換を急ぐべきだ	307	46.8
・維持困難な路線は、代替手段の確保を前提に縮小や廃止もやむを得ない	163	24.8
・税金を投入してでも、現在のバス・鉄道等の路線をできるだけ維持すべきだ	123	18.8
・何とも言えない・わからない	60	9.1
・不明	3	0.5

問17 長野県は、2030 年までに都道府県別の男女格差(ジェンダーギャップ)指数を「全国10位以内」に引き上げる目標を掲げています。今回の選挙結果を受けて、あなたは新しい県政下で、この目標がどの程度実現されると期待していますか。

	(人)	(%)
・大いに期待している	75	11.4
・ある程度期待している	230	35.1
・あまり期待していない	166	25.3
・まったく期待していない	40	6.1
・何とも言えない・わからない	138	21.0
・不明	7	1.1

問18 長野県知事に、特に求める資質や姿勢を2つまで選んでください。

	(人)	(%)
・政策を実行する力	279	42.5
・誠実さ・信頼感	258	39.3
・市町村との連携力	177	27.0
・国との調整力・発信力	156	23.8
・改革を進める力	132	20.1
・弱い立場への配慮	130	19.8
・将来像を示す力	60	9.1
・強いリーダーシップ	60	9.1
・その他	3	0.5
・何とも言えない・わからない	11	1.7
・不明	6	0.9

問19 長野県知事に今後求める県政運営の方向性として、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

	(人)	(%)
・基本路線は維持しつつ、一部見直してほしい	277	42.2
・現在の県政運営をおおむね継続してほしい	232	35.4
・現在の県政運営を大きく転換してほしい	51	7.8
・何とも言えない・わからない	92	14.0
・不明	4	0.6

問20 5選を果たした阿部守一知事の在任期間について、あなたの考えに近いものを選んでください。

	(人)	(%)
・実績が評価されているので、在任期間の長さは気にならない	360	54.9
・今回の5期(通算20年)を最後(集大成)にしてほしい	112	17.1
・5期20年は長すぎる(多選は好ましくない)	83	12.7
・何とも言えない・わからない	97	14.8
・不明	4	0.6

問21 あなたは、新たに知事に選ばれた阿部守一氏を支持しますか。支持しませんか。

	(人)	(%)
・支持する	313	47.7
・どちらかと言えば支持する	224	34.1
・どちらかと言えば支持しない	25	3.8
・支持しない	14	2.1
・何とも言えない・わからない	72	11.0
・不明	8	1.2

問22 (問21で「支持する」「どちらかと言えば支持する」とお答えの方にお尋ねします)支持する理由は何ですか。最もあてはまるものをお答えください。

	(人)	(%)
・大きな問題がないから	325	60.5
・具体的成果を上げているから	129	24.0
・将来像に期待できるから	54	10.1
・特色のある仕事をしているから	15	2.8
・その他	10	1.9
・不明	4	0.7

問23 (問21で「どちらかと言えば支持しない」「支持しない」とお答えの方にお尋ねします)支持しない理由は何ですか。最もあてはまるものをお答えください。

	(人)	(%)
・多選(長期政権)だから	15	38.5
・具体的成果を上げていないから	11	28.2
・問題が目立つから	3	7.7
・特色のある仕事をしていないから	2	5.1
・その他	6	15.4
・不明	2	5.1

問24 あなたは現在、どの政党・政治団体を支持していますか。

	(人)	(%)
・自民党	174	26.5
・参政党	23	3.5
・立憲民主党	19	2.9
・チームみらい	19	2.9
・国民民主党	18	2.7
・中道改革連合	16	2.4
・公明党	14	2.1
・日本維新の会	13	2.0
・日本保守党	13	2.0
・共産党	11	1.7
・社民党	3	0.5
・いのちの党(旧れいわ新選組)	-	-
・減税日本・ゆうこく連合	-	-
・その他の政党・政治団体	2	0.3
・支持する政党はない	243	37.0
・何とも言えない・わからない	84	12.8
・不明	4	0.6

(ii) 概要

有効回答 656 人

知事選結果の受け止め

問1 あなたは、今回の知事選の結果について、どのように受け止めていますか。

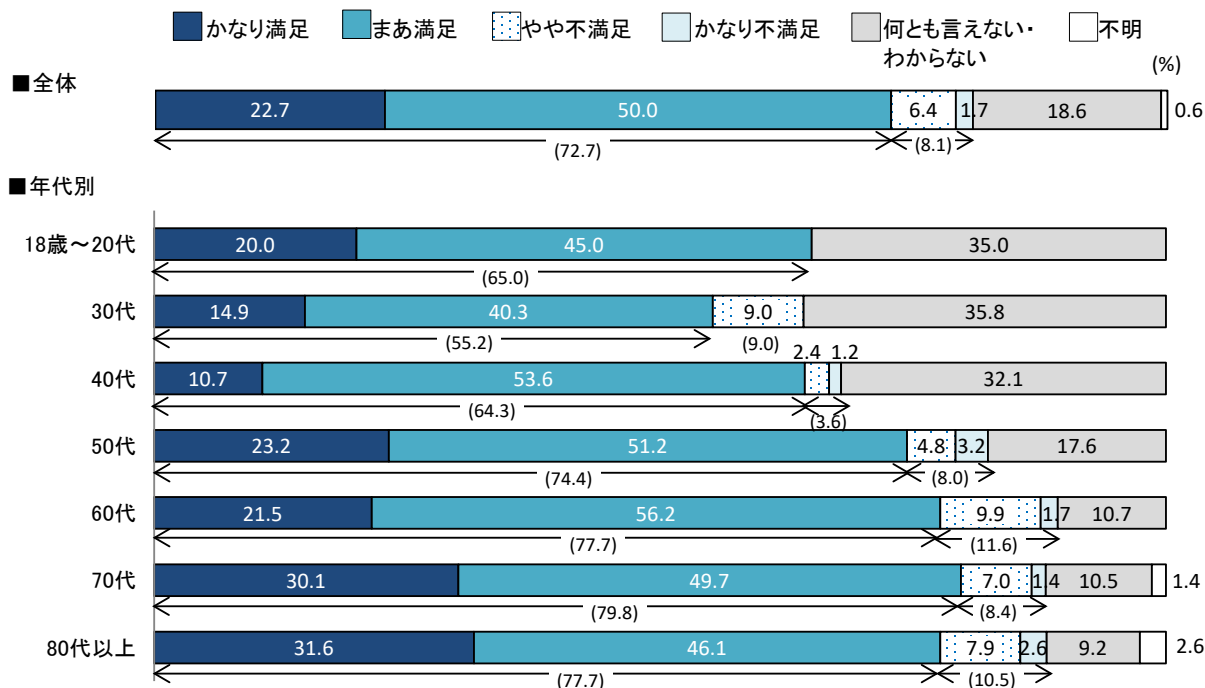
◆ 7割が「満足」と回答 幅広い信任得る現職

集計表35ページ

今回の知事選結果に対し、「満足（かなり＋まあ）」は72.7%と極めて高い水準に達しており、阿部県政の5期目スタートが県民から幅広く信任されたことが示された。内訳を見ると「まあ満足（50.0%）」が半数を占め、「かなり満足（22.7%）」と合わせると、大差で決着した選挙結果が概ね妥当なものとして受け止められている。一方、不満足（やや＋かなり）は8.1%と1桁台に留まっており、目立った反発は見られない。

男女別では女性（76.2%）が男性（68.9%）を7.3ポイント上回っており、明確な差が確認された。女性層における現職の安定感への評価が、全体数値を押し上げる要因となっている。これに対し、男性層では「やや不満足」が9.7%に達し、女性の3.8%と比較して相対的に厳しい視線が注がれている。

年代別では、60代（77.7%）や70代（79.8%）、80代以上（77.7%）で8割に迫る高い満足度を記録する一方、30代では55.2%に留まり、70代とは24.6ポイントもの大きな開きが生じている。特筆すべきは18歳～20代、30代で、「何とも言えない・わからない」とする回答が3分の1超に達しており、若年層における選挙結果への関心の希薄さがうかがえる。



投票の有無

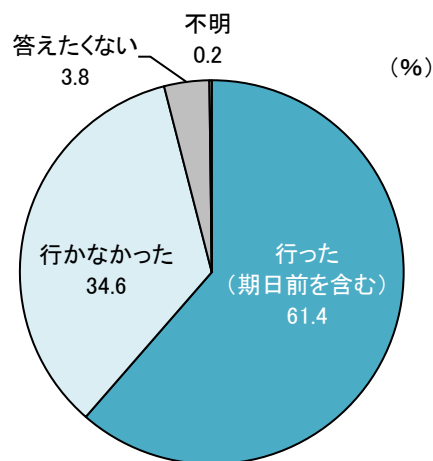
問2 あなたは、今回の知事選で投票に行きましたか。

- ◆ 「投票に行った」18歳～20代が40%、
80代以上が72%で明確な格差

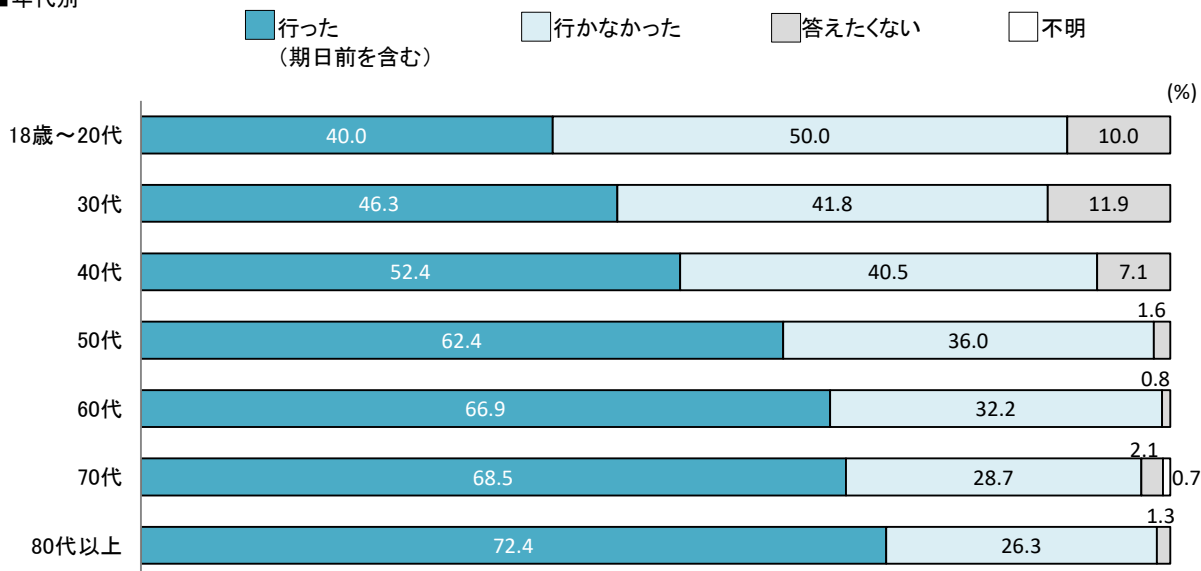
集計表36ページ

知事選の投票に「行った（期日前を含む）」の割合は61.4%であった。実際の投票率（40.53%）と比較すると、本調査の回答層は政治意識が高い層への偏りが推察されるが、回答層内においても参加意欲には顕著な差異が見られる。

年代別で見ると、18歳～20代と30代がそれぞれ40.0%、46.3%と半数に満たない一方、70代（68.5%）、80代以上（72.4%）は7割前後の高い水準を維持しており、若年層と高齢層の間には年代によって最大30ポイント余の大きな格差が存在している。特に18歳～20代と30代では「答えたくない」もそれぞれ10.0%、11.9%と2桁に達しており、投票行動を明らかにすることを忌避する傾向が他世代より顕著となった。



■年代別



投票先

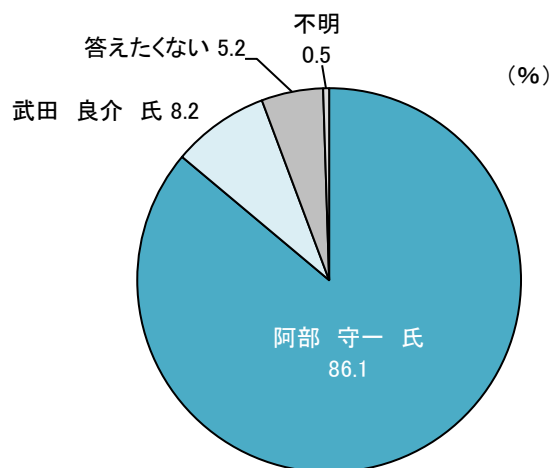
問3 (問2で「行った(期日前を含む)」とお答えの方にお尋ねします) 誰に投票しましたか。

◆ 幅広い年代で高い信任

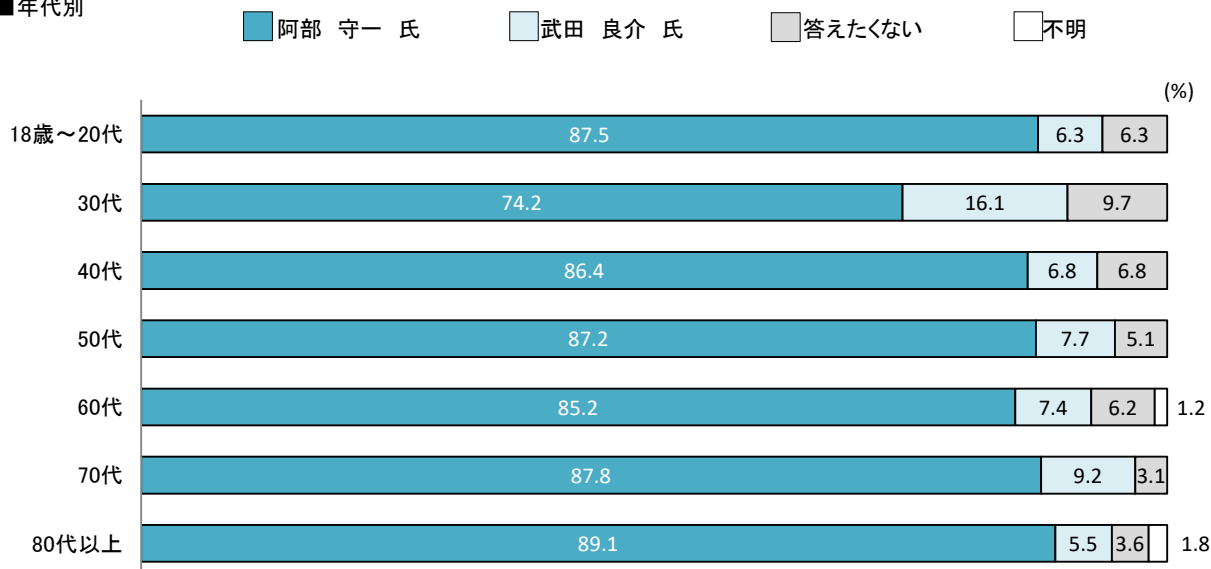
集計表37ページ

投票に行ったと回答した人の投票先は、当選した阿部守一氏が86.1%と圧倒し、武田良介氏の8.2%を大きく引き離した。選挙結果の得票率(阿部氏86.13%)と比較しても本調査の精度は高く、阿部県政の継続を望む民意が強固であることが証明された。

年代別で見ると、18歳～20代(87.5%)から80代以上(89.1%)まで幅広い世代で高い信任を維持しているが、30代に限っては74.2%に留まり、他世代より10ポイント以上低い。対照的に武田氏への投票は30代で16.1%に達し、全体の約2倍となっている。



■ 年代別



投票の決め手

問4 (問2で「行った(期日前を含む)」とお答えの方にお尋ねします) あなたが今回、投票する候補者を決める際、最も「決め手」になったのは何ですか。

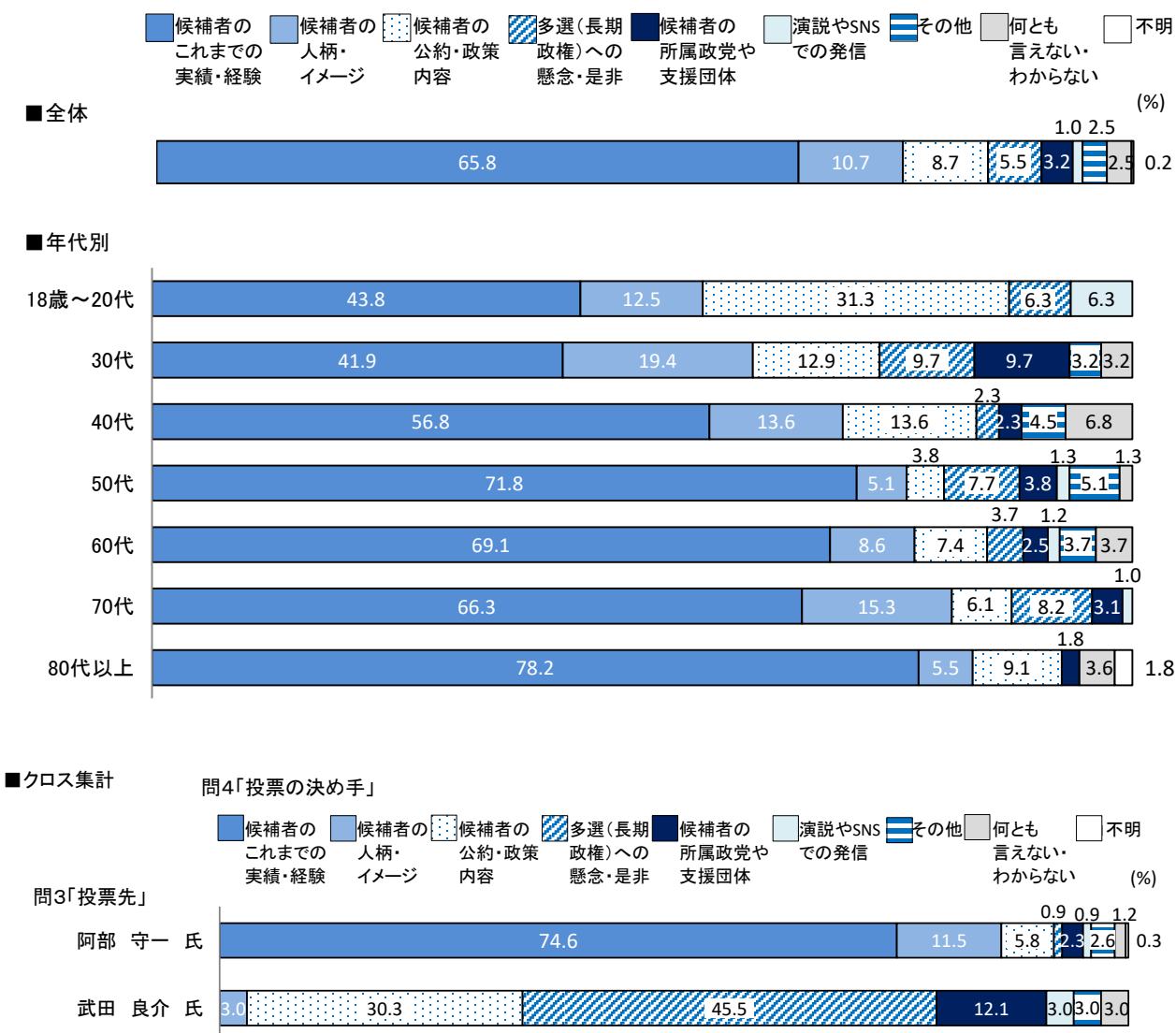
◆ 「実績・経験」が65.8%で最多 18歳～20代は「公約」を重視

集計表38ページ

投票の決め手は「候補者のこれまでの実績・経験」が65.8%で突出しており、16年間の県政運営に対する安心感が最大の評価軸となった。次いで「人柄・イメージ(10.7%)」、「公約・政策内容(8.7%)」と続く。

年代別で見ると、実績重視は50代、60代、70代で7割前後、80代以上では8割近くに達するのに対し、18歳～20代では43.8%に留まり、代わりに「公約・政策内容」が31.3%と他世代に比べて突出して高く表れた。若い世代ほど過去の評価よりも将来に向けた具体的な提示を重視している。

投票先別では、阿部氏投票層の74.6%が「実績・経験」を挙げたのに対し、武田氏投票層では、「多選への懸念・是非(45.5%)」と「公約・政策内容(30.3%)」が二大要因となっている。



棄権理由

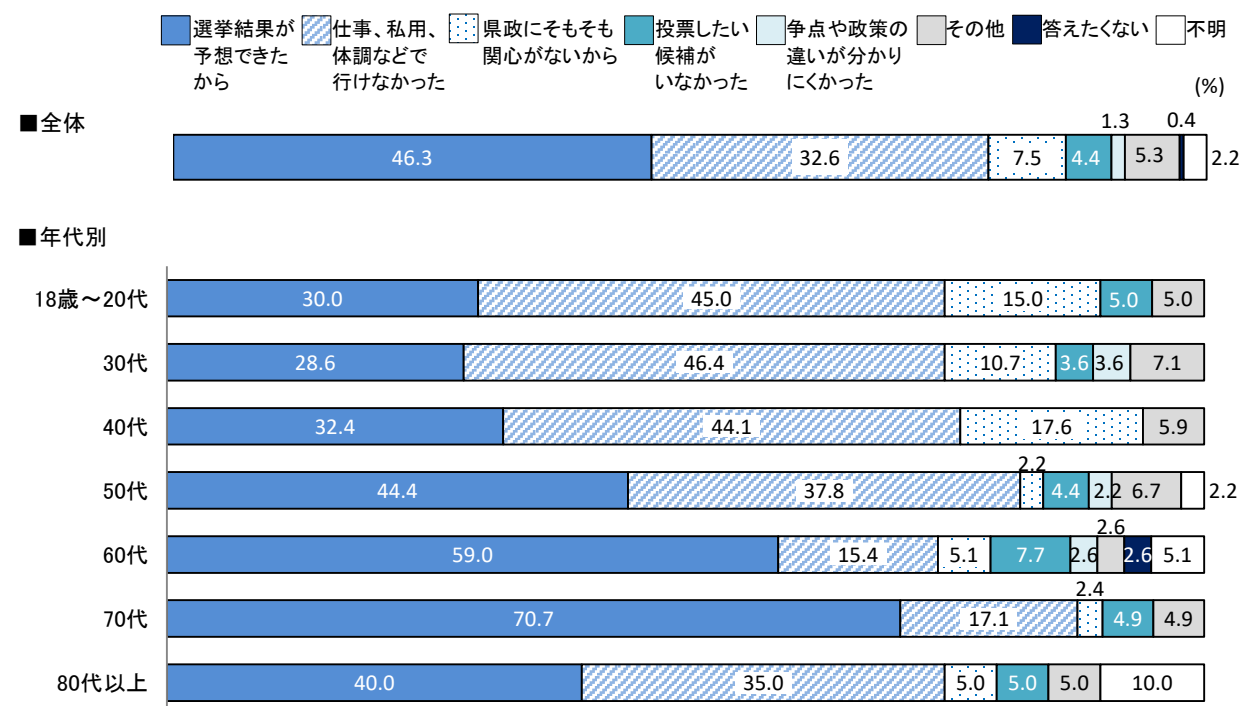
問5 (問2で「行かなかった」とお答えの方にお尋ねします) 投票に行かなかった理由は何ですか。最もあてはまるものをお答えください。

◆ 棄権理由「結果が予想できた」が最多

集計表39ページ

棄権理由は「選挙結果が予想できたから」が46.3%で最多となった。次いで「仕事、私用、体調など(32.6%)」が3割を占めた。

年代別で見ると、30代の棄権者の半数近くが「仕事や私用」を挙げているのに対し、70代では「結果が予想できたから」が約7割に達する。18歳～20代の「県政にそもそも関心がない(15.0%)」は全体の2倍となっている点も際立っている。



重要政策

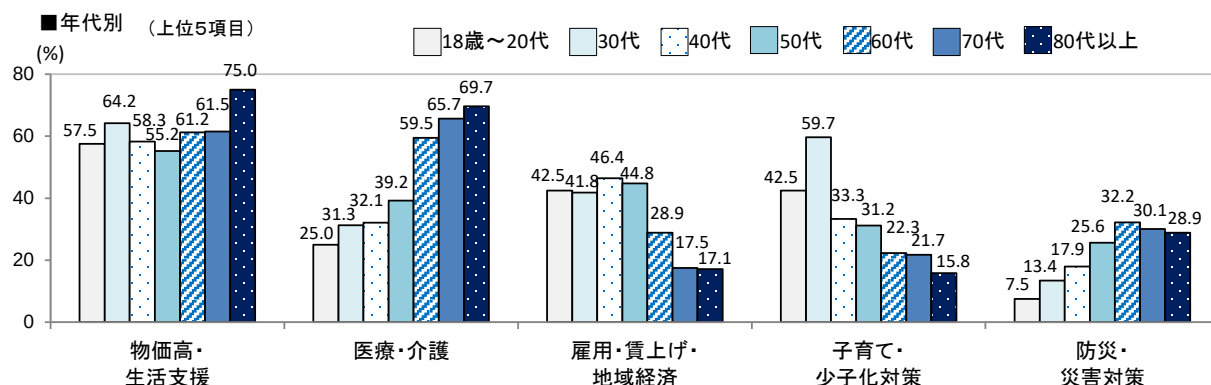
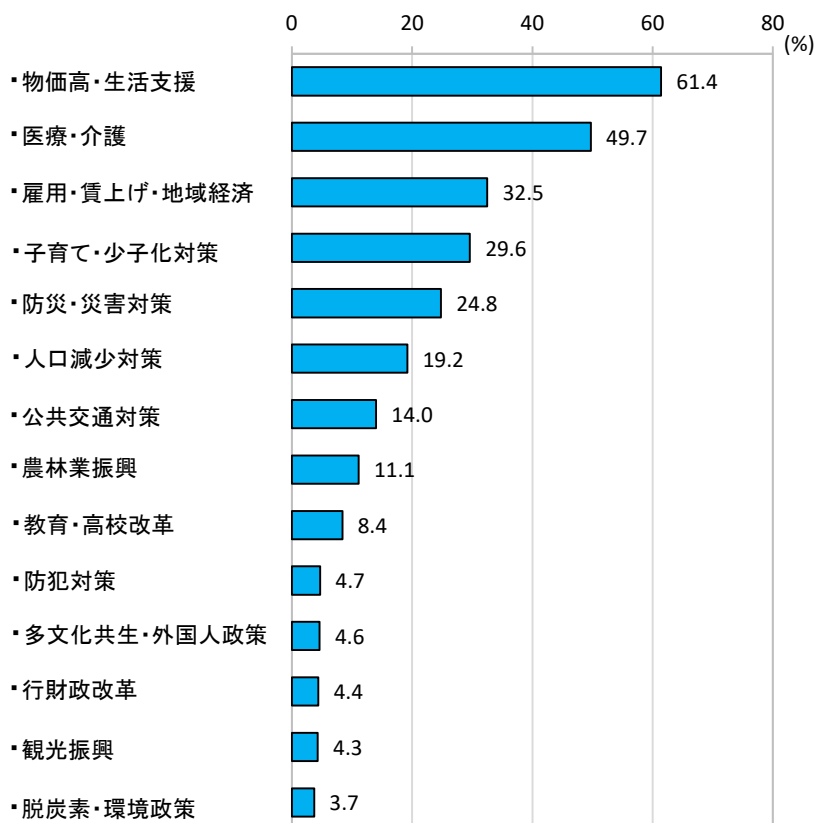
問6 今回の知事選を通じて、あなたが特に重要だと感じた政策分野はどれですか。
次の中から3つまで選んでください。

◆ 「物価高・生活支援」が6割余でトップ

集計表40ページ

重要政策は「物価高・生活支援」が61.4%でトップとなり、次いで「医療・介護（49.7%）」が2位となった。物価高対策はほとんどの世代でトップを占めており、県民の関心が自身の生活防衛に直結している実態が見える。3位には「雇用・賃上げ・地域経済（32.5%）」が入っており、インフレを上回る所得向上を求める期待が大きいことも示された。

年代別では、「子育て・少子化対策」と回答した人が30代（59.7%）や18歳～20代（42.5%）で全体の割合を大きく上回り、40代では「雇用・賃上げ・地域経済（46.4%）」への関心も極めて高い。対照的に70代（65.7%）や80代以上（69.7%）は「医療・介護」を重要視する傾向が強く、現役世代と高齢層の間で求める政策の優先順位が明確に分かれる。



県政の親近感

問7 あなたは、現在の長野県政を身近に感じていますか。

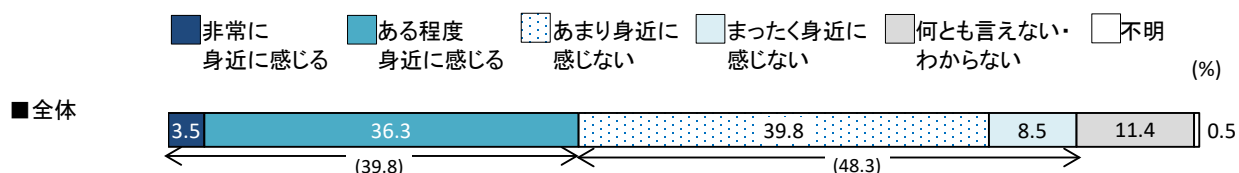
◆ 「身近に感じる」4割弱 「感じない」は5割弱

集計表41ページ

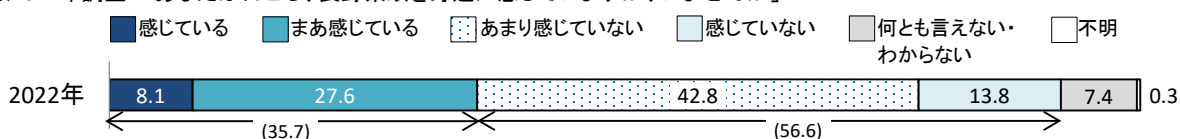
30代は6割「身近に感じない」

県政を「身近に感じる（非常に＋ある程度）」割合は39.8%であった。前回県知事選後の2022年調査時（35.7%）から数ポイント上昇した。ただ、依然として「身近に感じない（あまり＋まったく）」の48.3%が上回る状況が続いている。

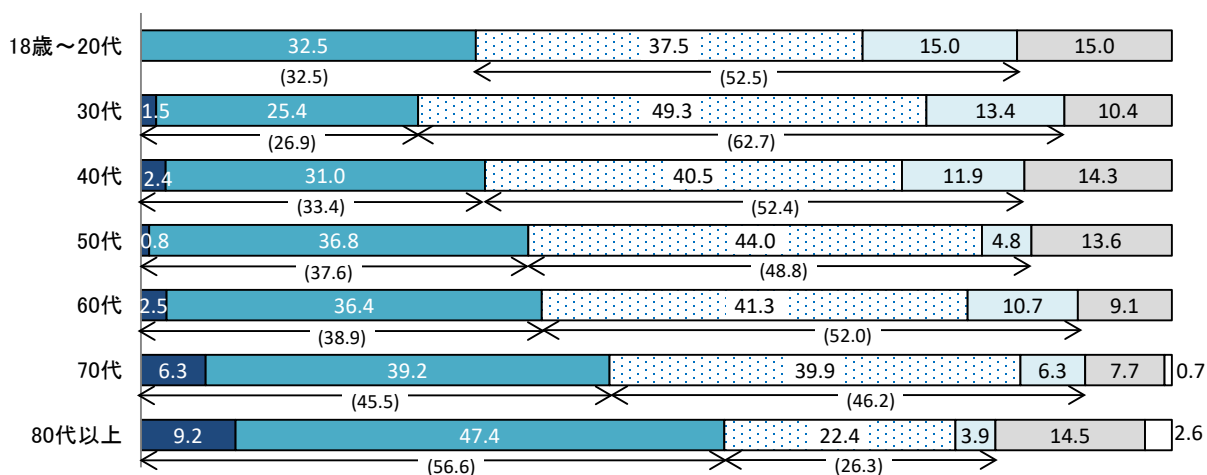
年代別では、80代以上（56.6%）が高い親近感を示す一方、30代は26.9%に留まり、30ポイント近い世代間格差が生じている。また、18歳～20代と30代では「身近に感じない」がそれぞれ5割、6割を超えており、若年世代にとって県政の存在が日常の意識外に置かれがちな状況がうかがえる。



※2022年調査「あなたは日ごろ、長野県政を身近に感じていますか、いませんか」



■ 年代別



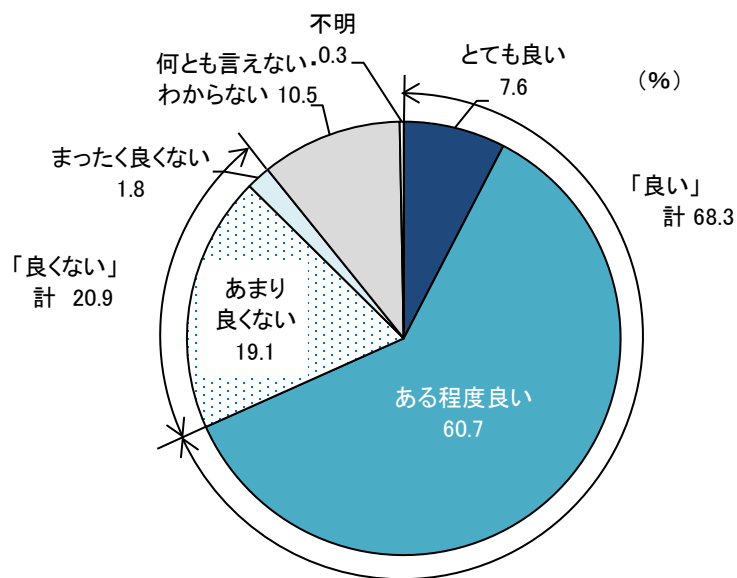
暮らし向き

問 8 現在の長野県内での暮らし向きについて、あなたの実感に近いものを選んでください。

◆ 「良い」 68.3%と高水準

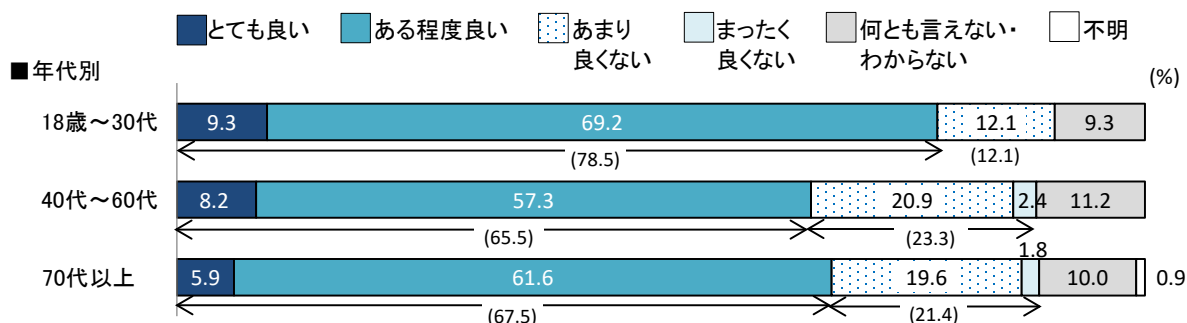
集計表42ページ

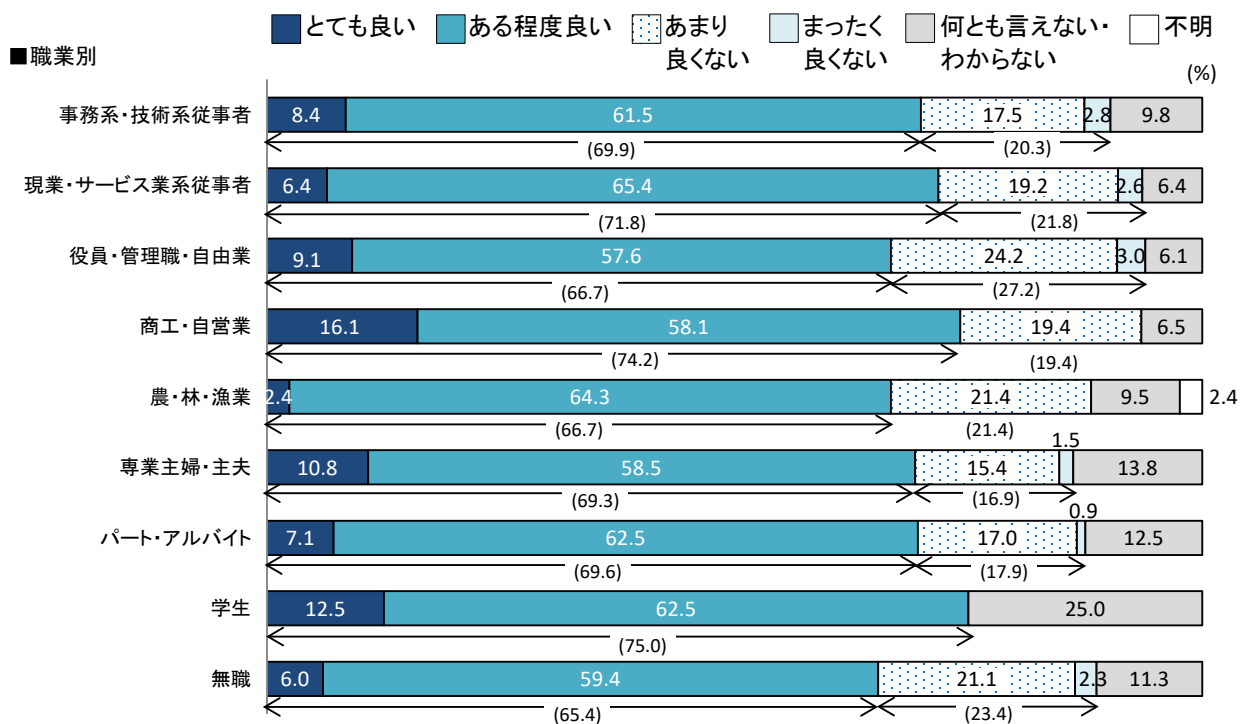
現在の暮らし向きが「良い（とても＋ある程度）」とした割合は計 68.3%であった。前回県知事選後の 2022 年調査時の 48.2%からは大幅な上昇だが、今回調査の内訳を見ると「とても良い」は 7.6%に留まり、大半は「ある程度良い（60.7%）」という保留付きの肯定である点は見逃せない。経済指標の好転が、県民個人の生活実感にまでは及んでいない状況がうかがえる。



年代別では、「良い」の割合は 18 歳～30 代 (78.5%) と 40 代～60 代 (65.5%) で 13.0 ポイントの差があり、中年層の生活実感が相対的に厳しいことが判明した。特に 50 代では「良くない」が計 26.4%と全世代で最も高かった。

職業別で見ると、「良い」の割合は、商工・自営業 (74.2%)、現業・サービス業系 (71.8%) が比較的高い。一方で「良くない」の割合は、役員・管理職・自由業 (27.2%) が比較的高くなっている。





賃上げ実感

問9 県内の雇用情勢や賃上げの動きについて、あなた自身の周囲で変化を感じますか。

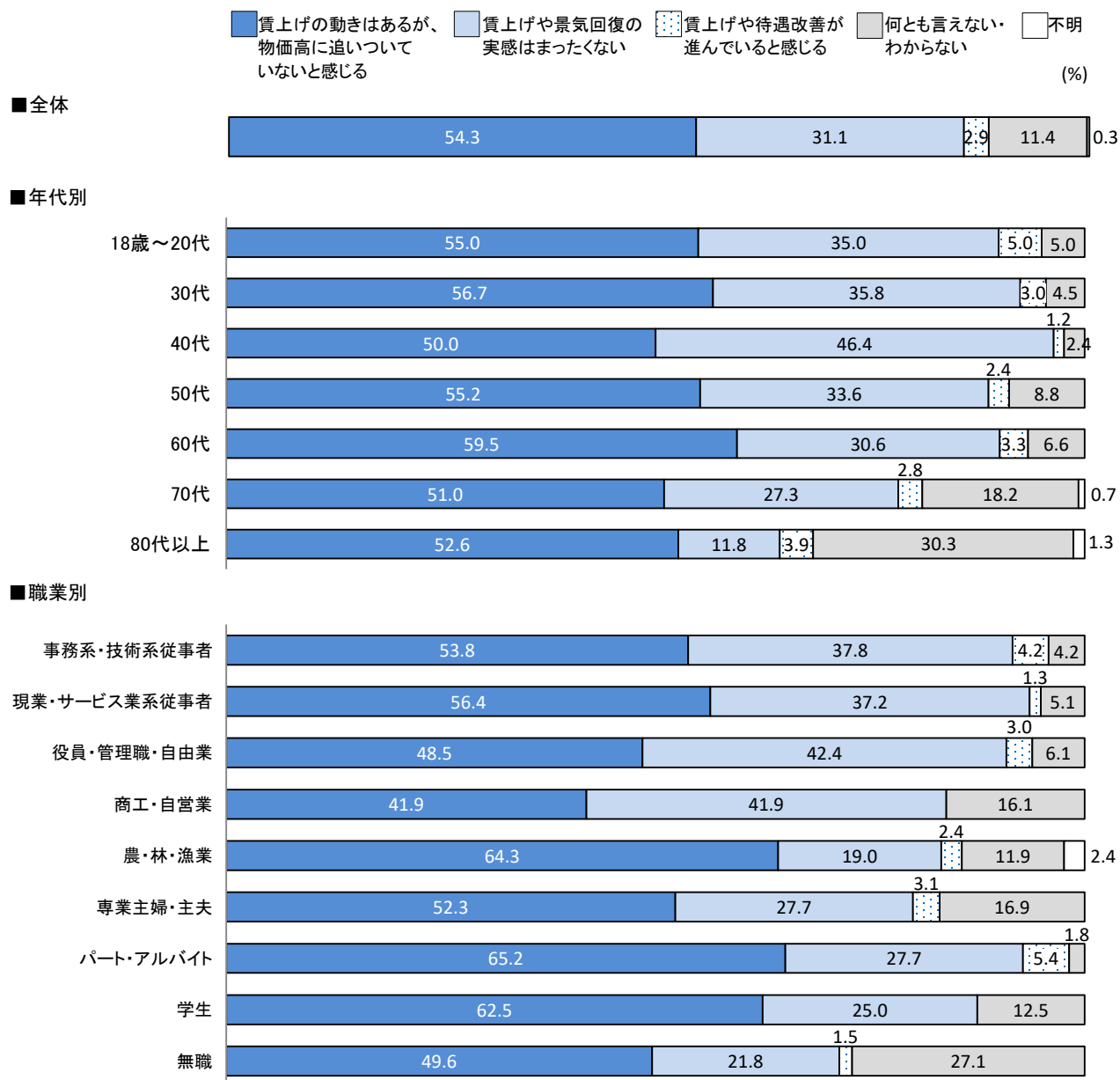
◆ 賃上げ「物価高に追いついていない」54%

集計表43ページ

賃上げの実感について「物価高に追いついていない」が54.3%、「実感はまったくない」が31.1%に達し、計8割以上が暮らしの改善を否定する極めて厳しい結果となった。「待遇改善が進んでいる」とする回答はわずか2.9%に過ぎず、マクロ経済指標と県民個人の生活実感の間に、埋めがたい乖離が存在していることが浮き彫りとなった。

年代別では40代の「実感なし(46.4%)」が突出して高く、次いで30代(35.8%)が続く。教育費や住宅ローン等の固定費負担が大きいこの世代にとって、ある程度の賃上げがあっても生活環境の改善に寄与しておらず、むしろ将来不安を増大させる要因となっている。一方、80代以上では「実感なし」が11.8%と低く、年金生活層と給与生活層の間に差が出ているが、全世代を通じて「追いついていない」とする認識は共通して高い。

職業別で見ると、「実感はまったくない」との回答が、事務系・技術系(37.8%)や現業・サービス業系(37.2%)、商工・自営業(41.9%)、役員・管理職・自由業(42.4%)で全体を上回り、厳しさが際立っている。パート・アルバイトでは「物価高に追いついていない」が65.2%に達し、ある程度の時給単価の向上があっても生活必需品の値上げがそれ以上の速さで家計を圧迫している様子がうかがえる。



将来・地域の不安

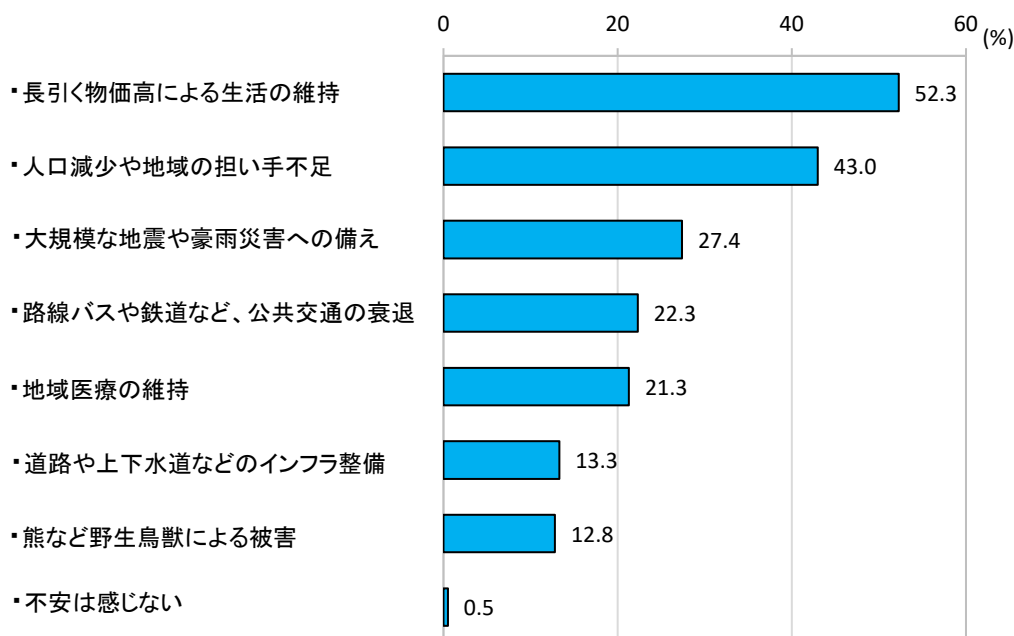
問 10 長野県の将来や地域の課題について、あなたは以下の事柄にどの程度不安を感じていますか。あてはまるものを2つまで選んでください。

◆将来不安は「物価高」が最多 「人口減少・担い手不足」が続く

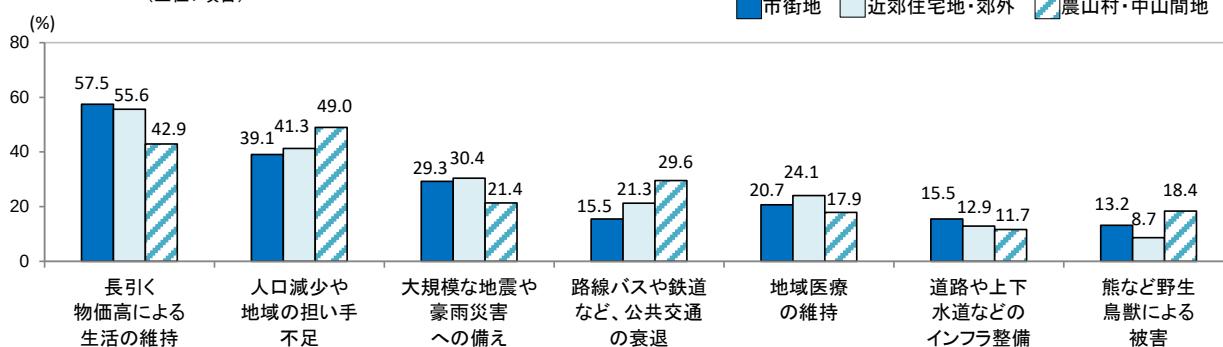
集計表44ページ

長野県の将来や地域の課題について不安を感じることを複数（2つまで）挙げてもらったところ、「長引く物価高による生活の維持」が52.3%で最多、次いで「人口減少や地域の担い手不足」が43.0%となった。続いて「大規模な地震や豪雨災害への備え（27.4%）」、「路線バスや鉄道など、公共交通の衰退（22.3%）」となった。

住居地域性別で見ると、農山村・中山間地においては「公共交通の衰退」への不安が29.6%で、市街地（15.5%）の約2倍に達しており、移動手段の消滅が現実の生活脅威となっている。市街地や近郊住宅地・郊外では「地震・豪雨災害」や「物価高」への不安が全体を上回っている。



■地域性別（上位7項目）



施策の現状評価

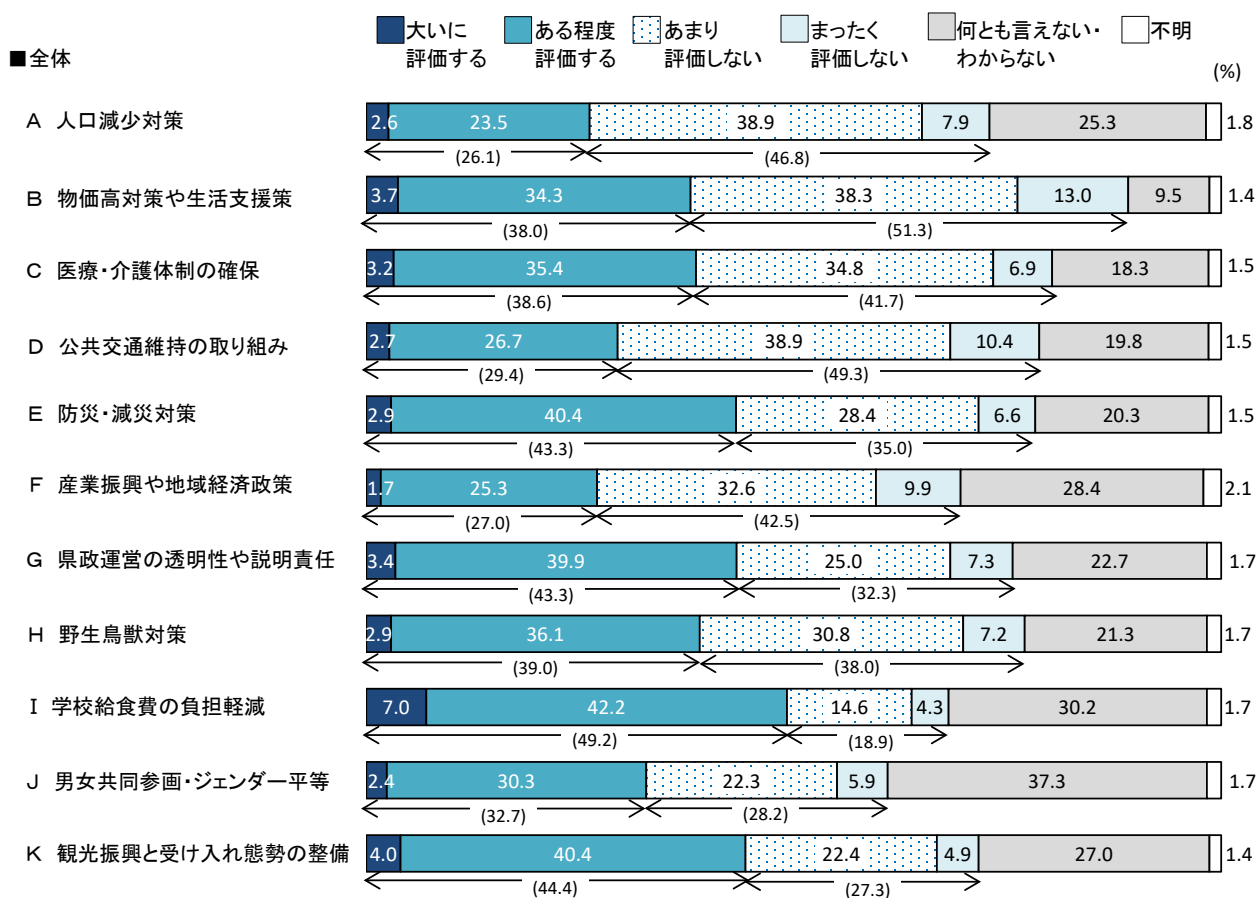
問 11 次に挙げる長野県の課題や施策の現状を、あなたは評価しますか。評価しませんか。

◆物価高対策を「評価しない」過半数

集計表45～55ページ

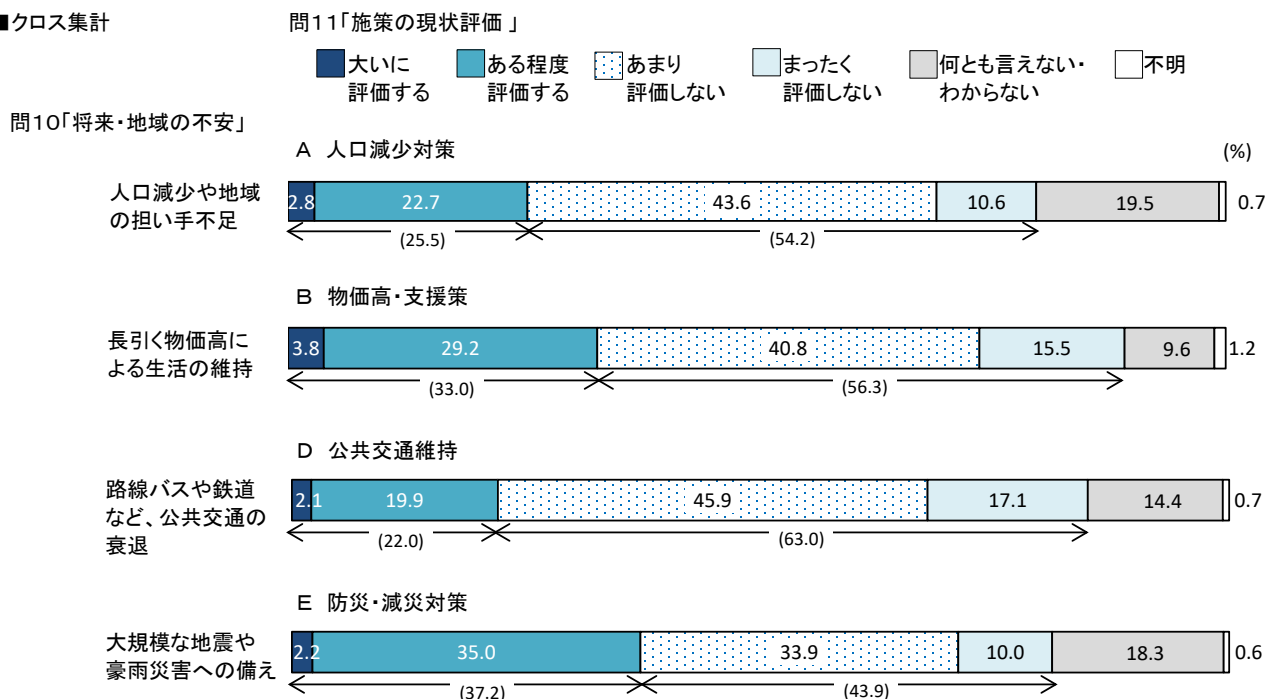
長野県が直面する課題や施策の現状に対する評価を聞いたところ、「評価する（大いに＋ある程度）」の割合が最も高かったのは「学校給食費の負担軽減（49.2%）」。次いで「観光振興と受け入れ態勢の整備（44.4%）」、「防災・減災対策（43.3%）」、「県政運営の透明性や説明責任（43.3%）」が4割を超えて上位に並んだ。生活に直結する支援や、阿部県政の透明性の確保については、県民から一定の評価を得ている現状が示された。

一方、「評価しない（あまり＋まったく）」の割合が最も高かったのは「物価高対策や生活支援策（51.3%）」となった。次いで「公共交通維持の取り組み（49.3%）」、「人口減少対策（46.8%）」と続く。特に物価高対策への不評は5割を超えており、問6で聞いた重要政策では「物価高・生活支援」が1位（61.4%）となったことを合わせると、県民にとって最大の不満・不安要因となっており、最優先で改善が求められている領域と言える。



問10「将来・地域の不安」で上位となった4項目との相関を見ると、「公共交通の衰退」を挙げた人は、公共交通維持の取り組みを「評価しない」が計63.0%に上り、全体を13.7ポイントも上回った。「地震や豪雨災害への備え」を不安に挙げた人は防災・減災対策を「評価しない（計43.9%）」が全体を8.9ポイント上回った。同様に「人口減少や担い手不足」を挙げた人は、人口減少対策を「評価しない（計54.2%）」が全体を7.4ポイント上回り、「物価高による生活維持」を挙げた人は、物価高対策や生活支援策を「評価しない（計56.3%）」が全体を5.0ポイント上回った。不安を感じる課題に対しては、県の施策に県民から厳しい視線が注がれている状況が見て取れる。

■クロス集計



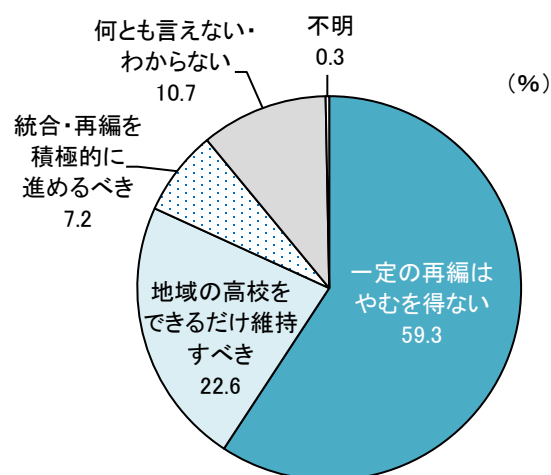
公立高校の再編・統合

問 12 公立高校の再編や統合についての考えに近いものはどれですか。

◆ 「やむを得ない」 6 割

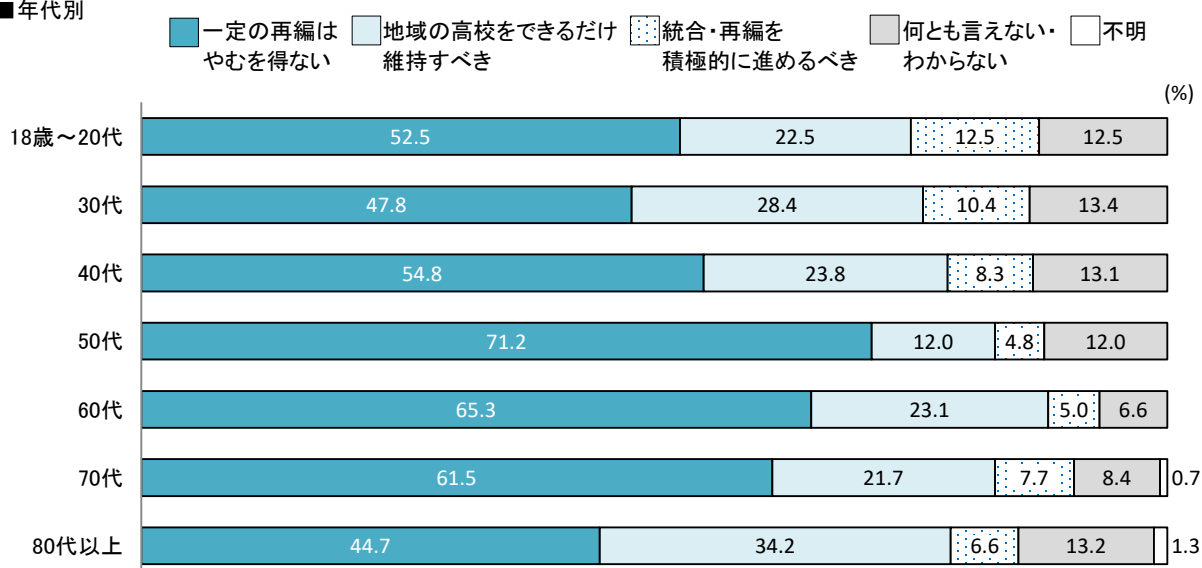
集計表56ページ

公立高校の再編・統合について聞いたところ、「一定の再編はやむを得ない」が59.3%と半数を超え、「地域の高校をできるだけ維持すべき(22.6%)」を大きく上回った。少子化に伴う規模適正化の必要性が県民に浸透している実態が浮き彫りとなった。「積極的に進めるべき(7.2%)」を合わせた推進・容認派は約3分の2に達し、阿部県政が進める高校改革の基本路線は一定程度信任されている状況が見える。



年代別では、50代で「やむを得ない」が71.2%と突出して高く、保護者世代の現実的な判断が目立つ。一方、80代以上では「維持すべき」が34.2%に達し、全体を11.6ポイント上回る明確な差が見られた。高齢層ほど地域コミュニティの核としての高校維持を望む傾向が強く、再編には地域感情への丁寧な配慮が引き続き求められる。

■年代別



宿泊税の導入

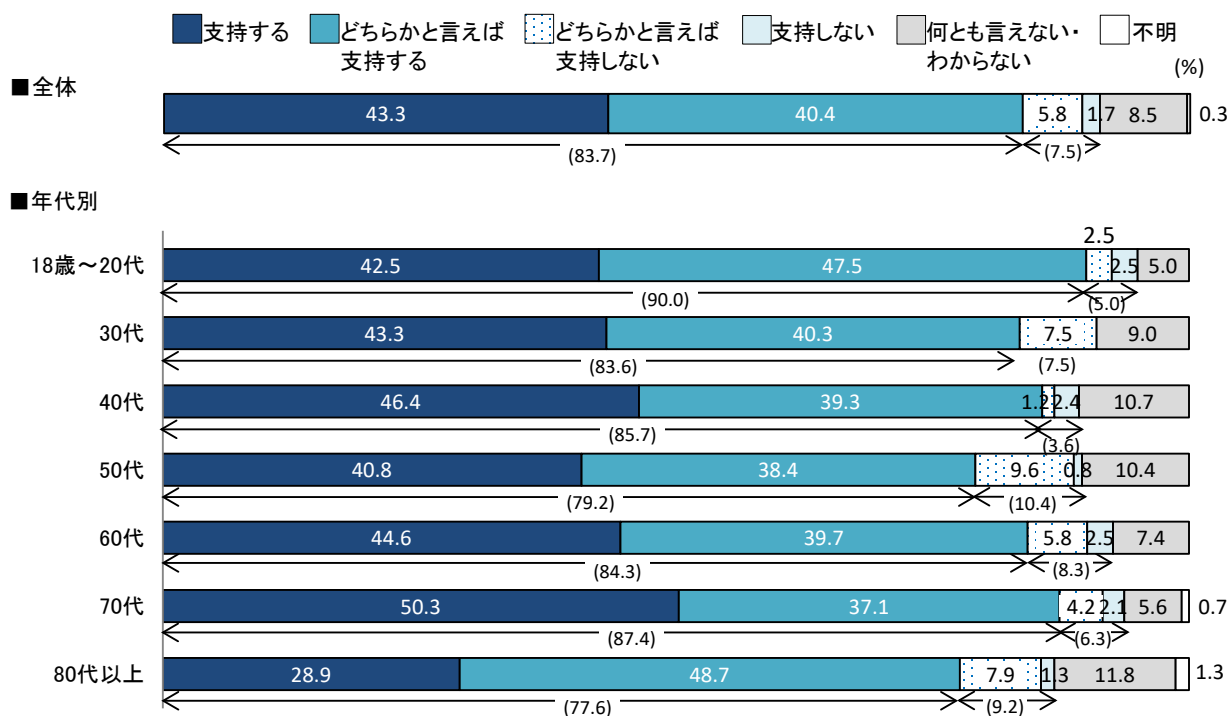
問 13 長野県は今年6月から、観光振興の財源を確保するために、宿泊施設の利用者に課税する「宿泊税」制度を導入しました。税額は1人1泊200円で、5年間で約108億円の税収を見込んでいます。あなたは、この宿泊税の導入について、どのように考えていますか。

◆ 宿泊税、8割強が支持

集計表57ページ

長野県が今年6月に開始した「宿泊税」制度について、「支持する（43.3%）」と「どちらかと言えば支持する（40.4%）」を合わせた支持層は計83.7%に達した。不支持層は計7.5%の低水準に留まり、観光振興の財源確保という目的が、県民から高い納得感をもって受け入れられていることが見て取れる。

年代別では、18歳～20代において支持層が90.0%に達している。これは全世代の中で最も高く、若年層が新税への抵抗が少なく、受益と負担の関係を肯定的に捉えていることがうかがえる。一方、80代以上では支持層が77.6%と8割を切っており、高い水準ではあるものの他世代と比較するとやや低い。



ゼロカーボン政策

問 14 ゼロカーボン政策（再生可能エネルギーの導入拡大等）について、あなたの考えはどれですか。

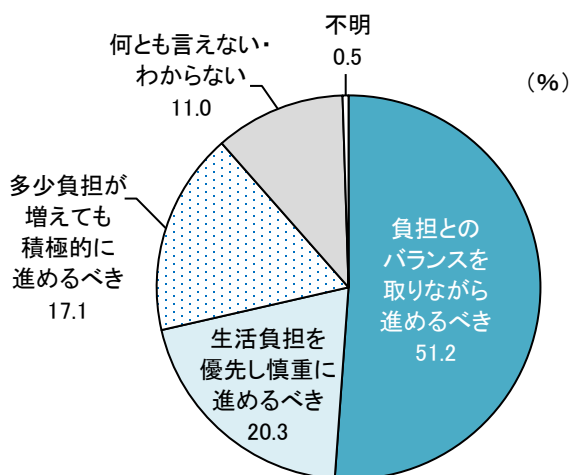
◆ 「負担とのバランス」重視が過半数

集計表58ページ

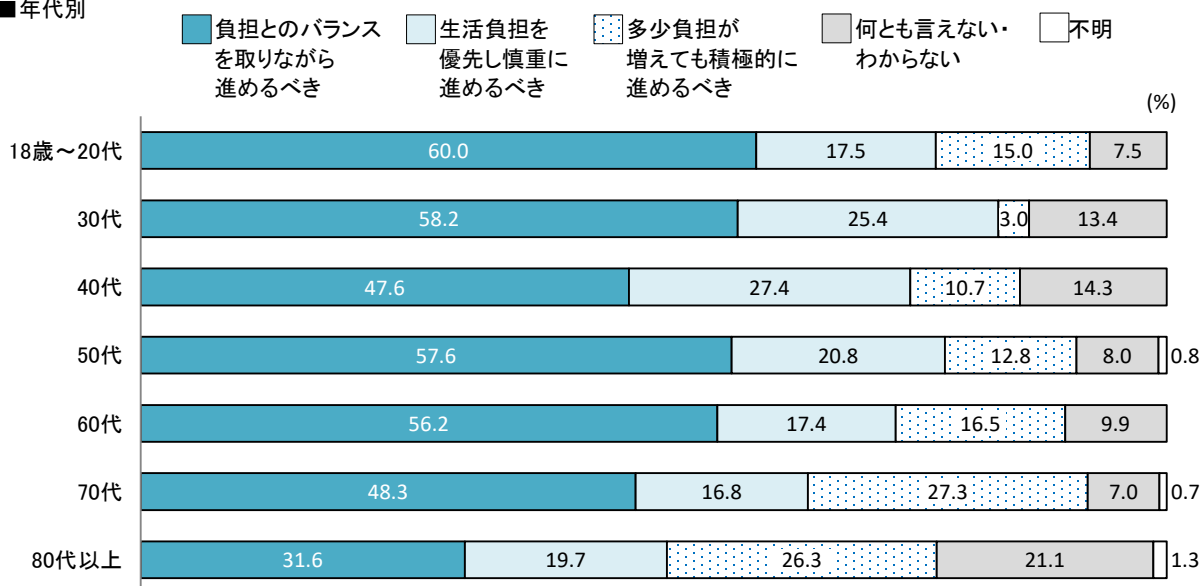
ゼロカーボン政策について、半数を超える 51.2%が「負担とのバランスを取りながら進めるべき」と回答し、現実的な推進を求める声が主流となった。

「積極的に進めるべき」の積極推進派も 17.1%おり、脱炭素への方向性自体は共有されている。一方で「生活負担を優先し慎重に（20.3%）」とする声も2割存在し、負担を伴う性急な推進には警戒感も示された。

年代別では、70代において「積極的に（27.3%）」が全体を10ポイント余上回り、積極推進派が多い一方、18歳～20代ではバランス重視派が6割に上り、現実的な推進姿勢が目立つ。高齢層ほど将来世代への責任を重視する一方、現役世代は現在の家計負担増への懸念を色濃く反映しているとみられる。



■ 年代別



外国人労働者の受け入れ

問 15 外国人労働者の受け入れについて、あなたの考えに近いものはどれですか。

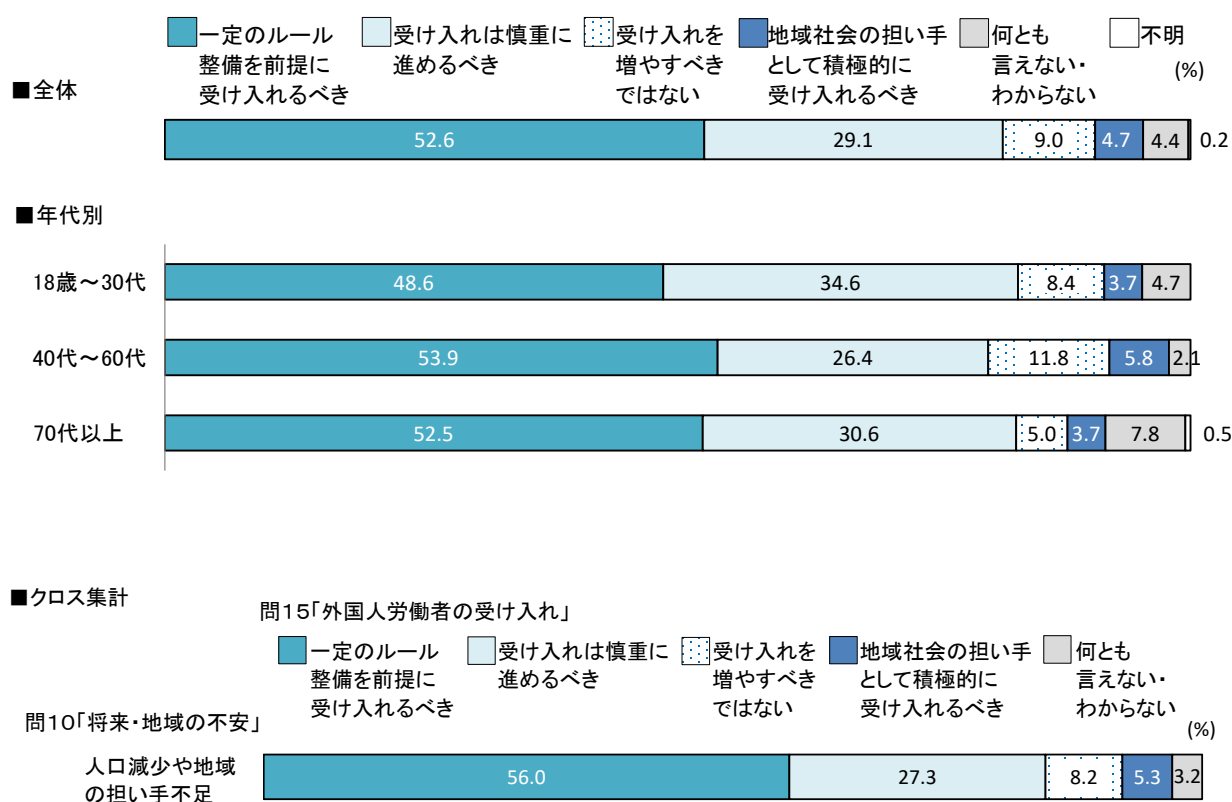
◆ 「ルール整備を前提に受け入れ」が過半数占める

集計表59ページ

外国人労働者の受け入れに対し、「一定のルール整備を前提に受け入れるべき」が52.6%と過半数を占め、現実的な容認派が主流となっている。「積極的に受け入れるべき(4.7%)」を合わせた肯定派は6割近くになる。一方、「慎重に進めるべき(29.1%)」と「増やすべきではない(9.0%)」を合わせた否定・慎重派も4割弱あった。相対的には労働力不足への対応として不可避とする認識がやや上回る状況となっている。

年代別では、18歳～30代において「積極的に受け入れるべき(3.7%)」や「一定のルール整備を前提に受け入れるべき(48.6%)」が全体より低く、逆に「慎重に進めるべき(34.6%)」は全体よりも高くなっており、相対的に若年層に慎重論が根強い。

問10「将来・地域の不安」とクロス集計すると、「担い手不足」に不安を感じる層の56.0%が受け入れについて現実的な容認派となっている。「積極的に受け入れるべき(5.3%)」を合わせた肯定派は61.3%と6割を超え、全体を4ポイント上回り、担い手不足への不安が外国人労働者を解決策として受容する意識をやや押し上げている。



県内の公共交通の維持

問 16 県内の公共交通の維持について、県は今後どのような姿勢で取り組むべきだと思いますか。

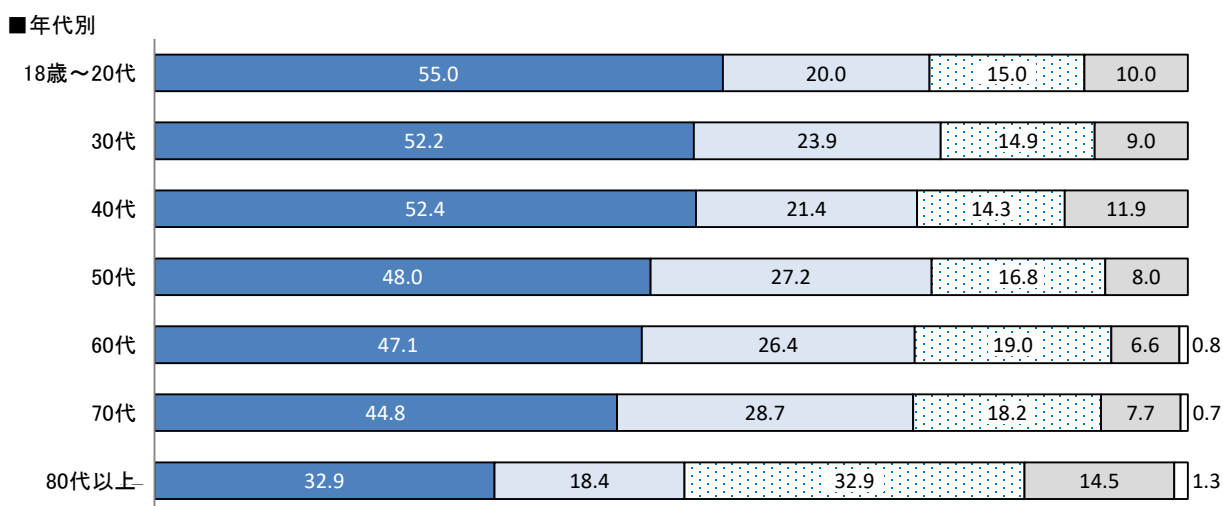
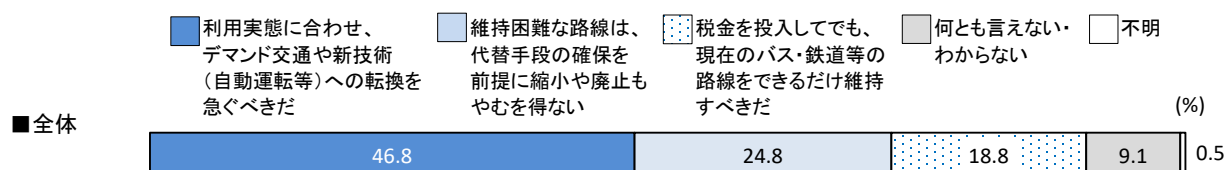
◆ 「デマンド・新技術への転換」が最多 46.8%

集計表60ページ

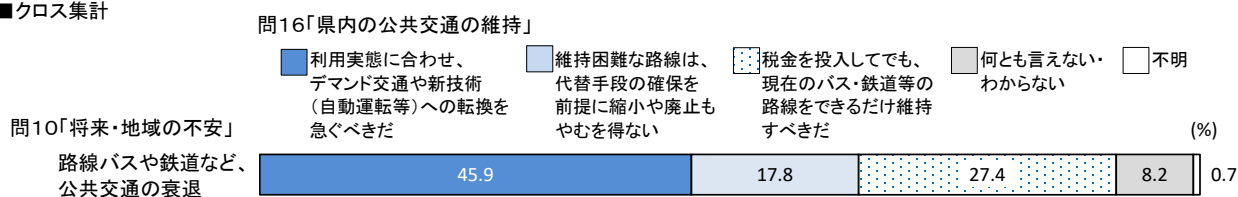
県内の公共交通維持に向けた姿勢について、「新技術への転換を急ぐべき」が 46.8% で最多となり、既存路線の維持に固執せず効率化を図るべきとする声が半数近くを占めた。「縮小や廃止もやむを得ない (24.8%)」を合わせると、約 7 割が抜本的な見直しを容認している。一方、「税金を投入してでも維持すべき」は 18.8% に留まり、財政負担増を伴う現状維持には批判的な視線が注がれている。

年代別では、80 代以上において「税金を投入してでも維持すべき」が 32.9% に達し、全体を 14.1 ポイント上回る突出した結果となった。一方、18 歳～20 代や 30 代、40 代では「新技術への転換」がそれぞれ 55.0%、52.2%、52.4% と過半数を占める。移動手段を公共交通に大きく依存する高齢層にとって、路線の縮小は死活問題であり、利便性を追求する若年層との間に、決定的な差が存在している。

問 10 で「公共交通の衰退」に不安を感じている層を見ると、27.4% が「税金を投入してでも維持」を求めており、全体より 9 ポイント近く高い。一方で同層の 45.9% が「新技術への転換」を求めており、不安が強いからこそ、既存の枠組み維持にとどまらず、確実な移動手段の確保を急ぐべきという合理的判断が働いている一面も見て取れる。



■ クロス集計



男女格差指数目標

問 17 長野県は、2030年までに都道府県別の男女格差（ジェンダーギャップ）指数を「全国10位以内」に引き上げる目標を掲げています。今回の選挙結果を受けて、あなたは新しい県政下で、この目標がどの程度実現されると期待していますか。

◆ 目標「全国10位以内」に「期待」46.5%

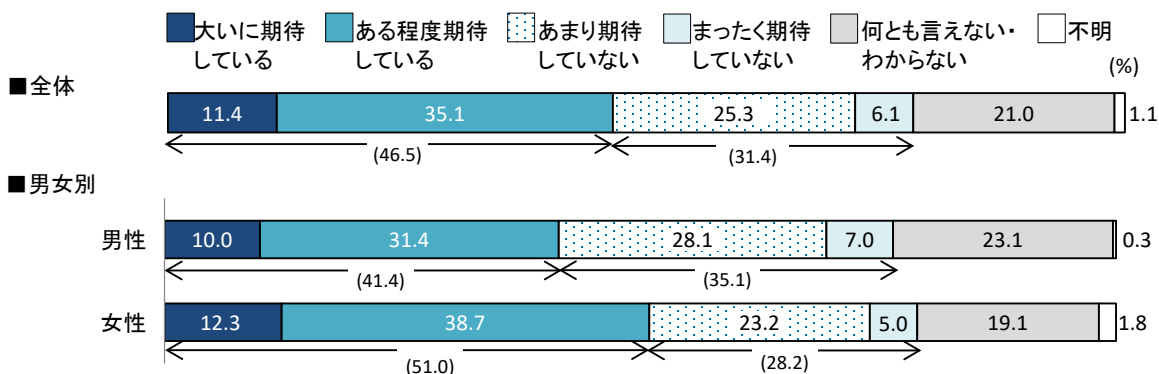
集計表61ページ

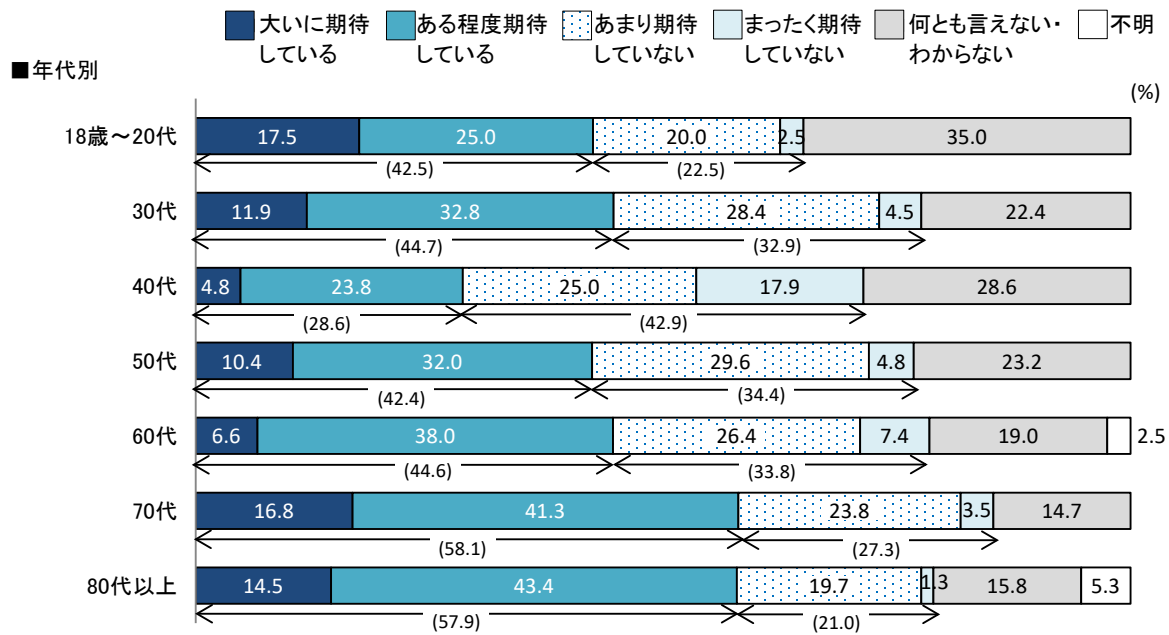
2030年までにジェンダー格差指数「全国10位以内」を目指す県の目標について、「期待している（大いに＋ある程度）」は計46.5%だった。「期待していない（あまり＋まったく）」の31.4%を15.1ポイント上回っているものの、半数には届いていない。「何とも言えない・わからない」も21.0%を占めており、県の目標設定に対し、実効性のある施策が伴うかを県民が冷静に見極めている現状が見て取れる。

男女別では、女性の「期待している」が計51.0%と過半数に達しているのに対し、男性は41.4%に留まり、9.6ポイントの明確な差が見られた。女性の期待が高い一方、男性の35.1%は「期待していない」としており、意識改革への抵抗感や関心の低さが数値に表れている。

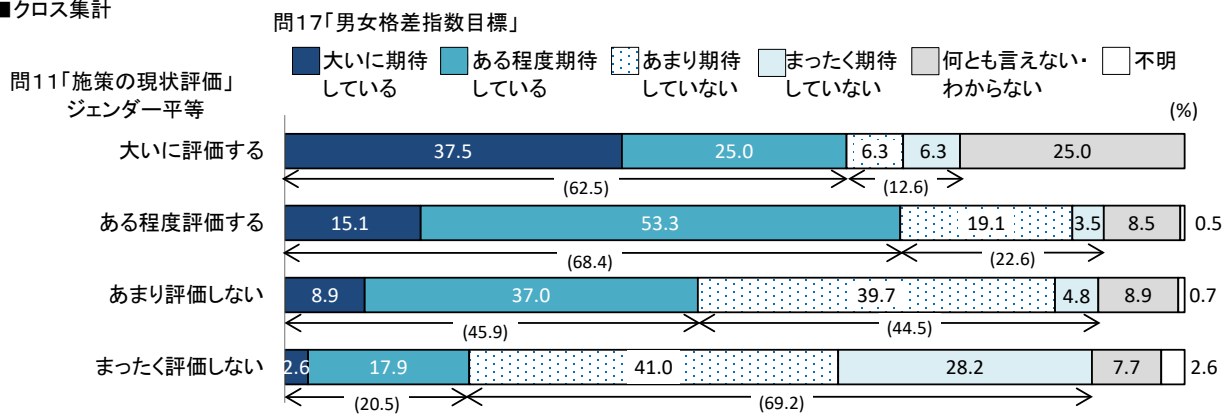
年代別では、70代（58.1%）や80代以上（57.9%）で期待が高いのに対し、40代では28.6%まで落ち込み、期待しない（42.9%）が大きく上回る「逆転現象」が起きている。子育てや仕事の現場で格差を実感している働き盛り世代ほど、県の数値目標の実現性に懐疑心が強い。若年層（18歳～20代）の期待値も42.5%と全体をやや下回っている。

問11のジェンダー平等評価とクロス集計すると、現在の施策を「ある程度評価する」層の68.4%が将来目標にも期待を寄せている。一方で「あまり評価しない」層の44.5%は「期待していない」としており、現状への不満が将来予測に直結している。





■クロス集計



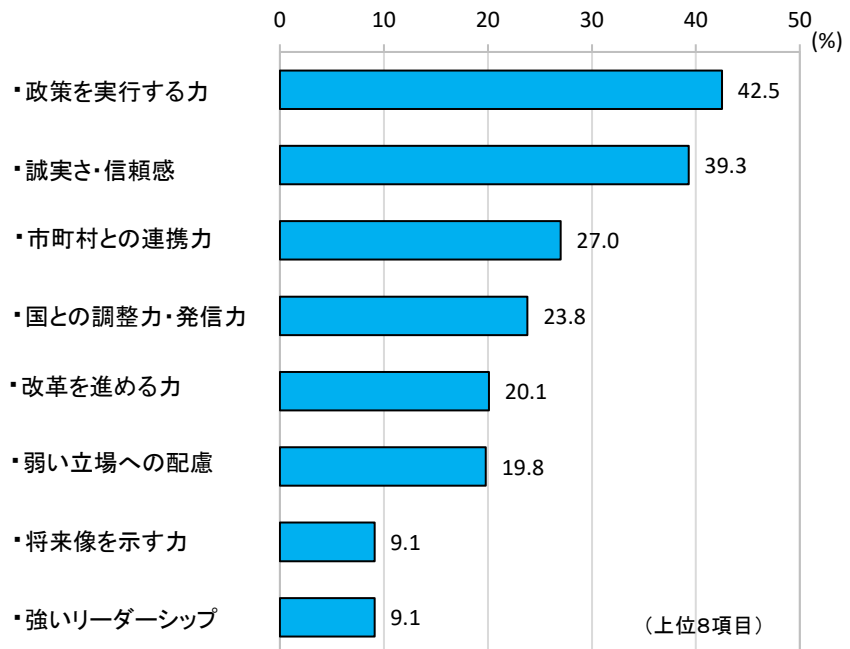
知事に求める資質

問 18 長野県知事に、特に求める資質や姿勢を2つまで選んでください。

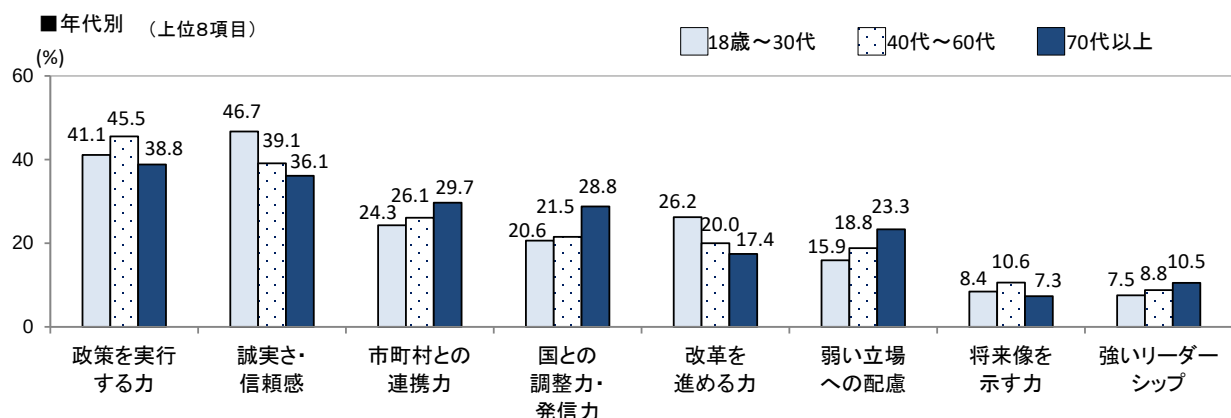
◆ 「政策実行力」トップ、「誠実さ・信頼感」が2位

集計表62ページ

知事に求める資質は、「政策を実行する力（42.5%）」が最多となり、次いで「誠実さ・信頼感（39.3%）」が僅差で2位となった。長年の実績を背景に、5期目においても着実な施策の具体化が求められている。3位には「市町村との連携力（27.0%）」が入っており、地域との協調路線が、引き続き知事に求められる重要な要件であることも示されている。



年代別で見ると、18歳～30代は「誠実さ・信頼感（46.7%）」が1位となっており、若年層ほど政治姿勢としてのクリーンさを重視している。これに対して40代～60代では「政策を実行する力（45.5%）」が最も高い。生活課題の解決を求める中年世代と、政治への信頼を優先する若年世代の間で、リーダーに求める資質が微妙に異なる状況が見て取れる。



県政運営の方向性

問 19 長野県知事に今後求める県政運営の方向性として、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

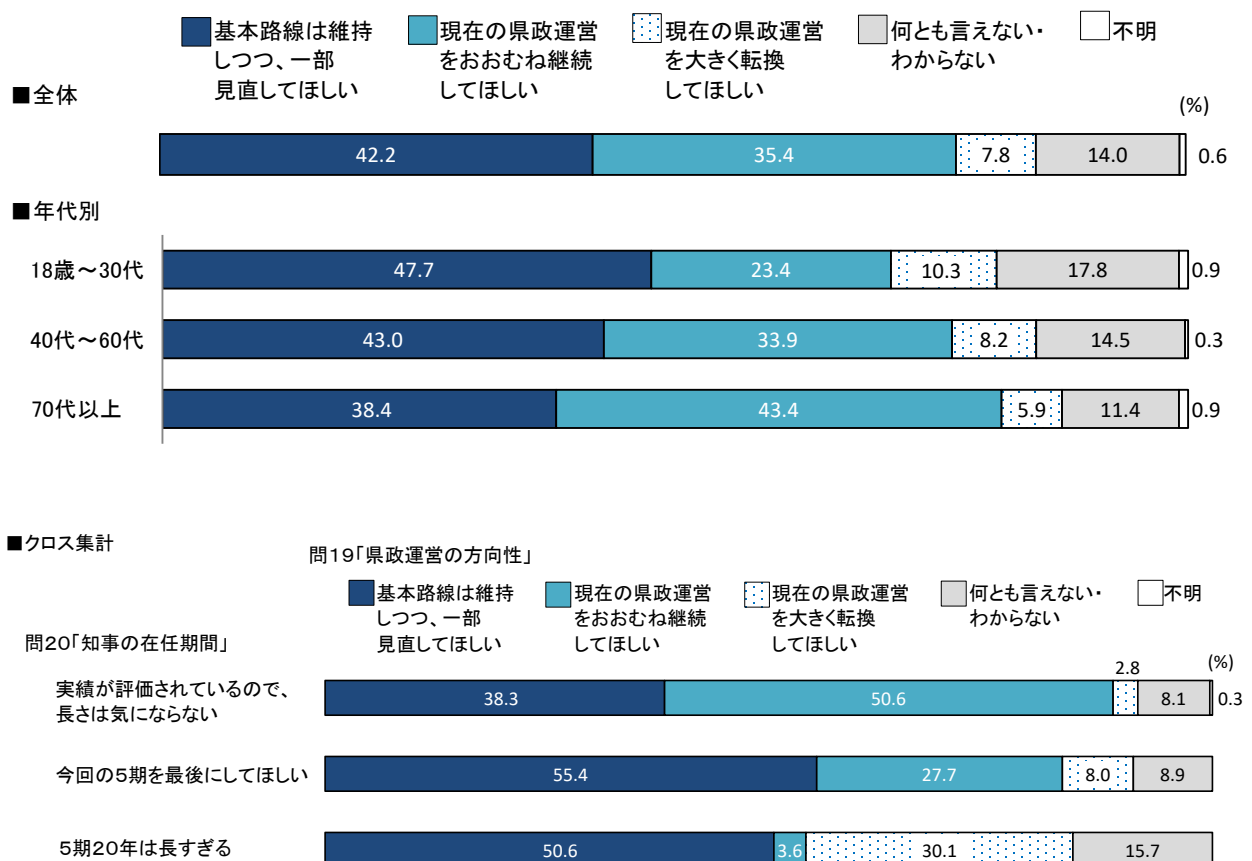
◆ 「一部見直し」42%、「継続」35%、「大きく転換」8%

集計表63ページ

今後の県政運営の方向性について、「基本路線は維持しつつ、一部見直してほしい」が42.2%、「おおむね継続してほしい」が35.4%となり、計77.6%が現在の阿部県政の継承を支持した。「大きく転換してほしい」とする声は7.8%に留まり、県民の圧倒的多数が急激な変化よりも安定と一部修正を望んでいる。

年代別に見ると、18歳～30代では「大きく転換」が10.3%と他年代に比べて高い。また、「一部見直し（47.7%）」も全体より5.5ポイント高くなっており、現状への閉塞感からくる変化への要求が若年層で根強いことが分かる。70代以上では「一部見直し（38.4%）」「大きく転換（5.9%）」が全体より低く、年齢が上がるほど安定志向が強固になる傾向がうかがえる。

問20の知事の在任期間とクロス集計すると、「実績が評価されているので、長さは気にならない」とする層の50.6%が「継続」を望んでいる。一方、「5期20年は長すぎる」とする層の30.1%が「大きく転換」を求めており、在任期間の長さを批判する層は、これまでの県政運営の方向性を否定する傾向が強い。しかし、多選を批判する層であっても50.6%は「一部見直し」を求めており、全否定ではなく軌道修正を促す声が中核をなしている点も特徴と言える。



知事の在任期間

問 20 5選を果たした阿部守一知事の在任期間について、あなたの考えに近いものを選んでください。

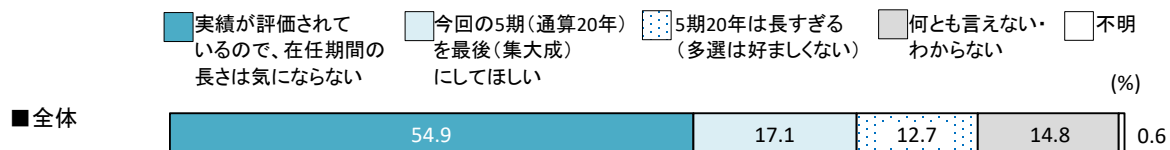
◆ 5選「実績が評価されているので気にならない」が過半数

集計表64ページ

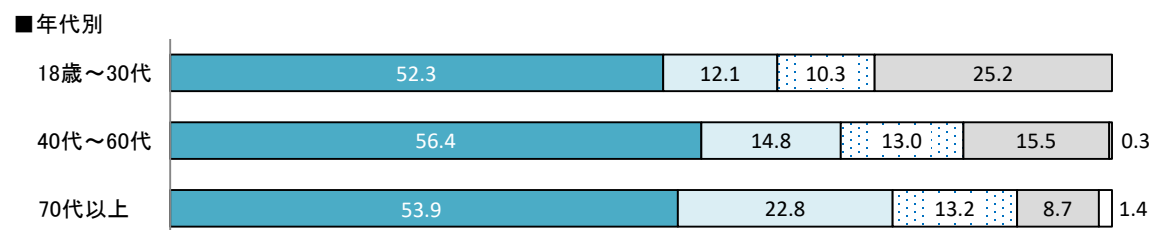
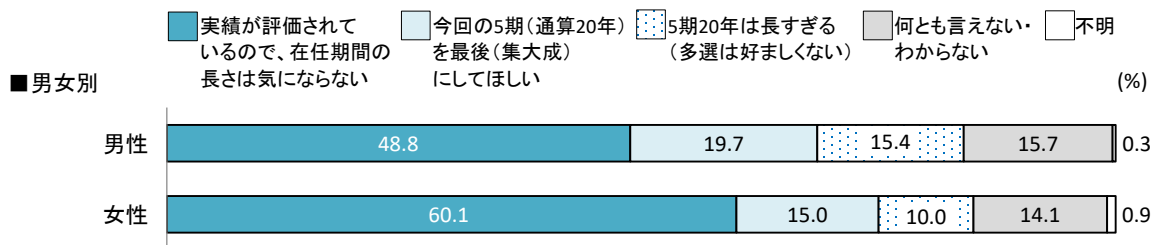
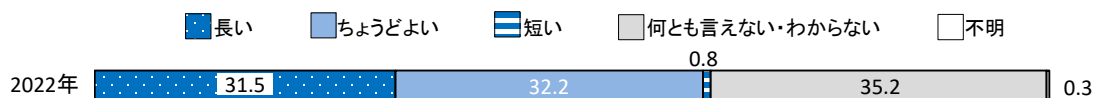
5選を果たした阿部知事の在任期間について、「実績が評価されているので、長さは気にならない」が54.9%と過半数を占めた。「5期20年は長すぎる（12.7%）」とする批判は少数に留まった。前回県知事選後の2022年調査では、在任期間について「長い（31.5%）」と「ちょうどよい（32.2%）」が拮抗していた状況を踏まえると、多選の弊害よりも4期16年の実績を根拠とした多選容認論が広がった形とも取れる。

男女別では、女性の60.1%が「長さは気にならない」としたのに対し、男性は48.8%に留まり、11.3ポイントの顕著な差が見られた。「5期20年は長すぎる」は男性15.4%に対して女性は10.0%で、男性より5.4ポイント低かった。女性による実績重視が現職の長期政権を強力にバックアップしている構図も見取れる。

年代別に見ると、18歳～30代では「何とも言えない（25.2%）」が4分の1を超え、判断を保留する傾向が強い。一方、70代以上では「今回の5期（通算20年）を最後（集大成）」とする「集大成論」が22.8%と他世代より高い。現職を長く支えてきた高齢者層において、5期目を一つの区切りと捉える意識が芽生えているとも取れる。



※2022年調査「阿部知事は、9月から4期目に入ります。あなたは、4期16年の在任期間について、どのような印象を持ちますか」



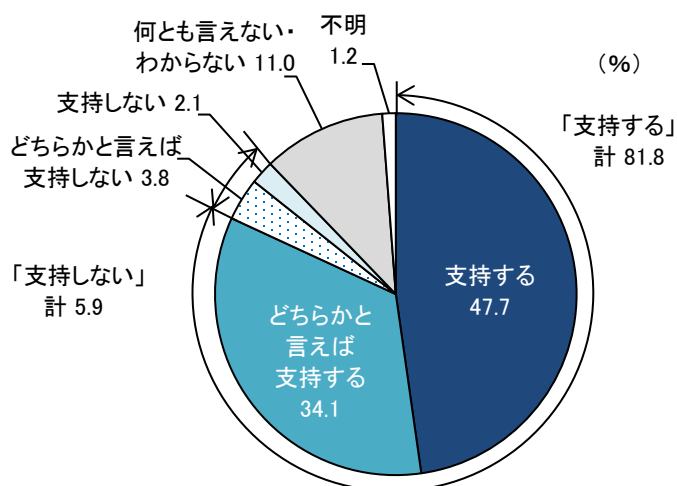
阿部知事の支持率

問 21 あなたは、新たに知事に選ばれた阿部守一氏を支持しますか。支持しませんか。

◆ 「支持する」 81.8%

集計表65～66ページ

阿部知事への支持率は、「支持する（47.7%）」と「どちらかと言えば支持する（34.1%）」を合わせて81.8%に達した。当選直後の支持率を過去の県知事選調査で見ると、初当選時の2010年（82.6%）、2014年（90.1%）、2018年（90.0%）、2022年（91.7%）と推移しており、5回の県知事選いずれも8割以上の信任を得続けている。

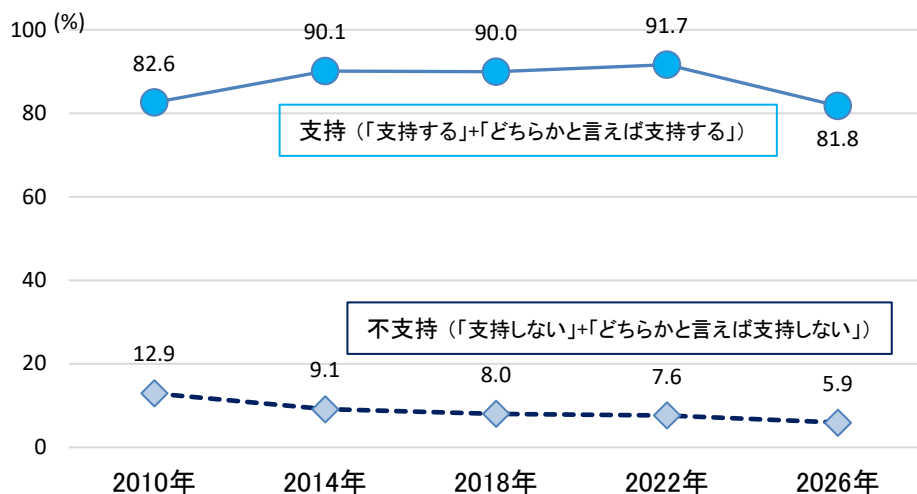


男女別で見ると、女性（86.2%）の支持が男性（77.6%）を8.6ポイント上回る明確な差が表れた。

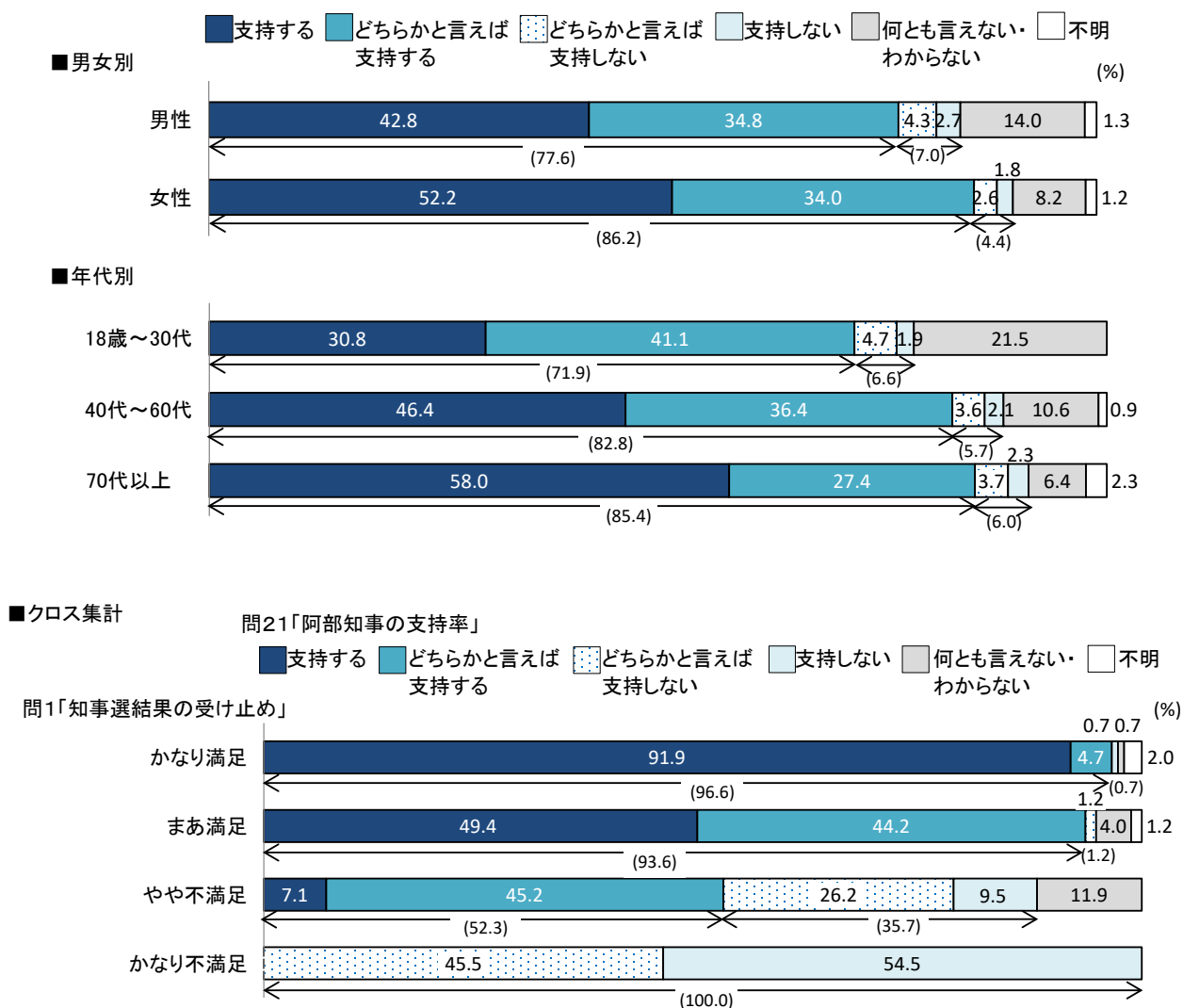
年代別では、「支持する」が70代以上で85.4%に達するなど高齢層ほど支持が盤石となっており、18歳～30代では71.9%と13.5ポイント低い。また18歳～30代は「何とも言えない・わからない」も21.5%と2割を超えており、若年層の満足感をいかに確保するかが、5期目の大きな課題となっている。

問1の知事選結果への満足度とクロス集計すると、結果に「かなり満足」とした層の支持率は96.6%に達する。一方、結果に「やや不満足」とした層においても52.3%が知事を「支持する」と回答しており、選挙結果に100%納得していない層であっても、阿部氏の資質や実績については肯定的に評価していることがうかがえる。

■ 当選直後支持率の推移



※2022年調査は選択肢に「何とも言えない・わからない」がなし。2010年、2014年、2018年は電話調査。



支持する理由

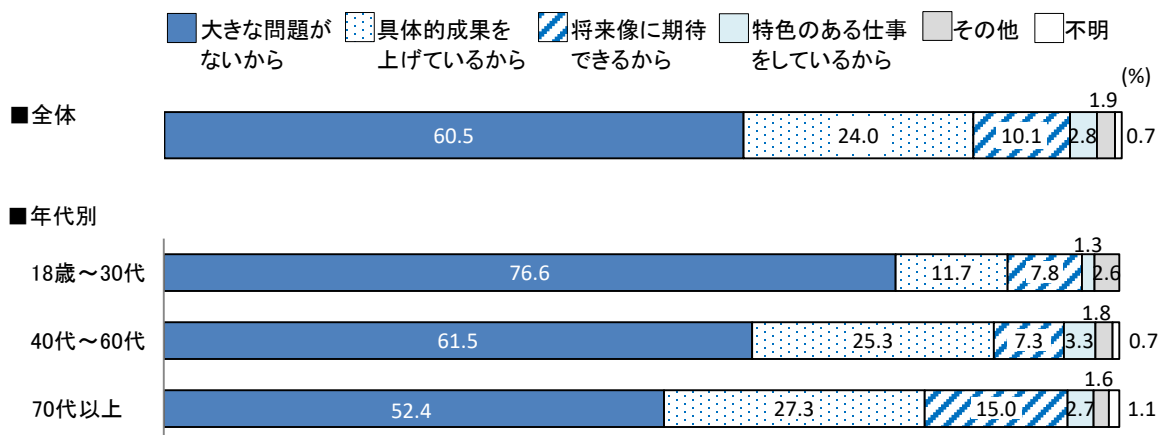
問22 (問21で「支持する」「どちらかと言えば支持する」とお答えの方にお尋ねします)
支持する理由は何ですか。最もあてはまるものをお答えください。

◆ 支持理由「大きな問題がないから」6割

集計表67ページ

阿部知事を支持する理由を聞いたところ、「大きな問題がないから」が60.5%と圧倒的多数を占めた。次いで「具体的成果を上げているから(24.0%)」、「将来像に期待できるから(10.1%)」となった。堅実な運営による安定感が、高支持率を支える背景となっていることが読み取れる。

年代別では、18歳～30代において「大きな問題がない(76.6%)」が7割を超え、他年代より高い値となった。一方、70代以上では「将来像に期待できる」が15.0%と全体を4.9ポイント上回る。長年の実績を見守ってきた層ほど、5期目の新たなビジョンに対して前向きな期待を寄せていることがうかがえる。



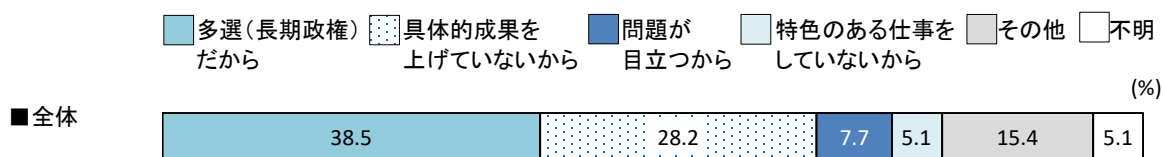
支持しない理由

問 23 (問 21 で「どちらかと言えば支持しない」「支持しない」とお答えの方にお尋ねします)

◆ 不支持理由は「多選だから」が最多

集計表68ページ

知事を「支持しない」層にその理由を尋ねたところ、「多選（長期政権）だから」が38.5%で最多となり、次いで「具体的成果を上げていないから（28.2%）」となった。全体の支持率が8割を超える中、割合の小さい不支持層の主たる論拠は、16年の在任期間そのものに向けられていることが分かる。ただし、標本数は39と少ないため、これらの数値は参考値として捉える必要がある。



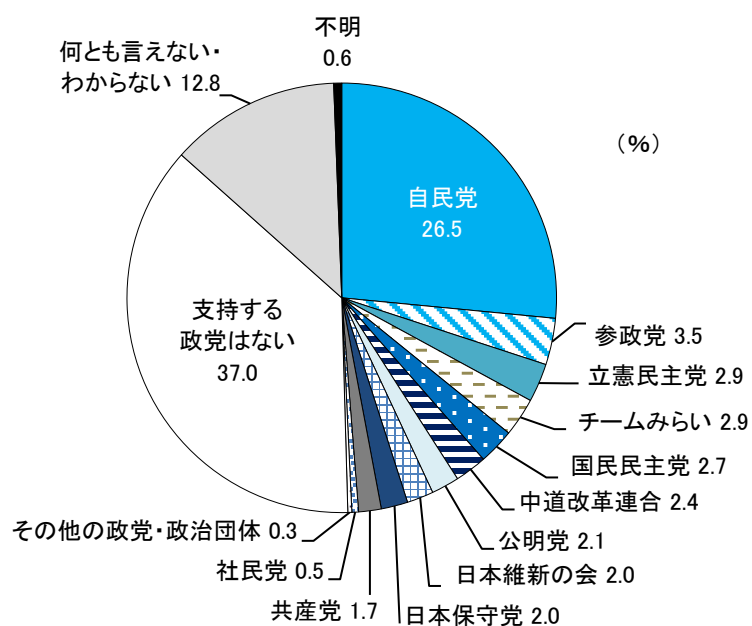
支持政党

問 24 あなたは現在、どの政党・政治団体を支持していますか。

◆ 「支持する政党はない」最多 37%

集計表69ページ

現在の支持政党を聞いたところ、「支持する政党はない（無党派）」が 37.0%で最多となり、次いで自民党が 26.5%、参政党が 3.5%、立憲民主党とチームみらいが共に 2.9%となった。



Ⅲ 調査票

県民世論調査「阿部県政5期目」（2026 知事選選挙後）調査票

＜ご回答に際してのお願い＞

- ❖ 封筒の宛名に書かれたご本人様の回答をお願いいたします。
- ❖ ご回答は、選択肢の番号を右端の□の中にご記入ください。
- ❖ その他の場合は、（ ）内に内容をご記入ください。

問1 あなたは、今回の知事選の結果について、どのように受け止めていますか。

- ① かなり満足
- ② まあ満足
- ③ やや不満足
- ④ かなり不満足
- ⑤ 何とも言えない・わからない

☐

問2 あなたは、今回の知事選で投票に行きましたか。

- ① 行った（期日前を含む） → 問3、問4、問6へ
- ② 行かなかった → 問5、問6へ
- ③ 答えたくない → 問6へ

☐

問3 （問2で「① 行った（期日前を含む）」とお答えの方にお尋ねします）
誰に投票しましたか。

- ① 阿部 守一 氏
- ② 武田 良介 氏
- ③ 答えたくない

☐

問4 (問2で「① 行った(期日前を含む)」とお答えの方にお尋ねします)
あなたが今回、投票する候補者を決める際、最も「決め手」になったのは
何ですか。

- ① 候補者の公約・政策内容
- ② 候補者のこれまでの実績・経験
- ③ 候補者の人柄・イメージ
- ④ 候補者の所属政党や支援団体
- ⑤ 多選(長期政権)への懸念・是非
- ⑥ 演説やSNSでの発信
- ⑦ その他()
- ⑧ 何とも言えない・わからない

問5 (問2で「② 行かなかった」とお答えの方にお尋ねします)
投票に行かなかった理由は何ですか。最もあてはまるものをお答えください。

- ① 県政にそもそも関心がないから
- ② 投票したい候補がいなかった
- ③ 争点や政策の違いが分かりにくかった
- ④ 選挙結果が予想できたから
- ⑤ 仕事、私用、体調などで行けなかった
- ⑥ その他()
- ⑦ 答えたくない

(全員の方にお尋ねします)

問6 今回の知事選を通じて、あなたが特に重要だと感じた政策分野はどれですか。
次の中から3つまで選んでください。

- ① 子育て・少子化対策
- ② 医療・介護
- ③ 物価高・生活支援
- ④ 雇用・賃上げ・地域経済
- ⑤ 教育・高校改革
- ⑥ 人口減少対策
- ⑦ 公共交通対策
- ⑧ 防災・災害対策
- ⑨ 防犯対策
- ⑩ 農林業振興
- ⑪ 観光振興
- ⑫ 脱炭素・環境政策
- ⑬ 多文化共生・外国人政策
- ⑭ 行財政改革
- ⑮ その他()
- ⑯ 特にない
- ⑰ 何とも言えない・わからない

問7 あなたは、現在の長野県政を身近に感じていますか。

- ① 非常に身近に感じる
- ② ある程度身近に感じる
- ③ あまり身近に感じない
- ④ まったく身近に感じない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

☐

問8 現在の長野県内での暮らし向きについて、あなたの実感に近いものを選んでください。

- ① とても良い
- ② ある程度良い
- ③ あまり良くない
- ④ まったく良くない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

☐

問9 県内の雇用情勢や賃上げの動きについて、あなた自身の周囲で変化を感じますか。

- ① 賃上げや待遇改善が進んでいると感じる
- ② 賃上げの動きはあるが、物価高に追いついていないと感じる
- ③ 賃上げや景気回復の実感はまったくない
- ④ 何とも言えない・わからない

☐

問10 長野県の将来や地域の課題について、あなたは以下の事柄にどの程度不安を感じていますか。あてはまるものを2つまで選んでください。

- ① 人口減少や地域の担い手不足
- ② 長引く物価高による生活の維持
- ③ 大規模な地震や豪雨災害への備え
- ④ 熊など野生鳥獣による被害
- ⑤ 路線バスや鉄道など、公共交通の衰退
- ⑥ 地域医療の維持
- ⑦ 道路や上下水道などのインフラ整備
- ⑧ 不安は感じない
- ⑨ 何とも言えない・わからない

☐
☐

問11 次に挙げる長野県の課題や施策の現状を、あなたは評価しますか。評価しませんか。
A～Kそれぞれにつき、該当する番号に○印を付けてください。

		大いに評価する	ある程度評価する	あまり評価しない	まったく評価しない	何とも言えない・ わからない
A	人口減少対策 (若者流出、担い手不足への対応など)	①	②	③	④	⑤
B	物価高対策や生活支援策 (価格高騰対策、ガソリン価格への対応など)	①	②	③	④	⑤
C	医療・介護体制の確保 (地域医療、医師不足の解消など)	①	②	③	④	⑤
D	公共交通維持の取り組み (路線バスの減便・廃止、鉄道存続協議など)	①	②	③	④	⑤
E	防災・減災対策 (大規模地震への備え、避難所の環境など)	①	②	③	④	⑤
F	産業振興や地域経済政策 (中小企業支援、賃上げへの対応など)	①	②	③	④	⑤
G	県政運営の透明性や説明責任 (県民への説明、情報公開など)	①	②	③	④	⑤
H	野生鳥獣対策 (熊などの人里出没への対応、被害防止対策など)	①	②	③	④	⑤
I	学校給食費の負担軽減 (給食無償化に向けた市町村支援、制度設計など)	①	②	③	④	⑤
J	男女共同参画・ジェンダー平等 (格差解消、女性リーダーの育成など)	①	②	③	④	⑤
K	観光振興と受け入れ態勢の整備 (観光地の利便性向上、インバウンドの誘客、 オーバーツーリズムへの対応など)	①	②	③	④	⑤

問12 公立高校の再編や統合についての考えに近いものはどれですか。

- ① 統合・再編を積極的に進めるべき
- ② 一定の再編はやむを得ない
- ③ 地域の高校をできるだけ維持すべき
- ④ 何とも言えない・わからない

☐

問13 長野県は今年6月から、観光振興の財源を確保するために、宿泊施設の利用者に課税する「宿泊税」制度を導入しました。税額は1人1泊200円で、5年間で約108億円の税収を見込んでいます。あなたは、この宿泊税の導入について、どのように考えていますか。

- ① 支持する
- ② どちらかと言えば支持する
- ③ どちらかと言えば支持しない
- ④ 支持しない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

☐

問14 ゼロカーボン政策（再生可能エネルギーの導入拡大等）について、あなたの考えはどれですか。

- ① 多少負担が増えても積極的に進めるべき
- ② 負担とのバランスを取りながら進めるべき
- ③ 生活負担を優先し慎重に進めるべき
- ④ 何とも言えない・わからない

☐

問15 外国人労働者の受け入れについて、あなたの考えに近いものはどれですか。

- ① 地域社会の担い手として積極的に受け入れるべき
- ② 一定のルール整備を前提に受け入れるべき
- ③ 受け入れは慎重に進めるべき
- ④ 受け入れを増やすべきではない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

☐

問16 県内の公共交通の維持について、県は今後どのような姿勢で取り組むべきだと思いますか。

- ① 税金を投入してでも、現在のバス・鉄道等の路線をできるだけ維持すべきだ
- ② 利用実態に合わせ、デマンド交通や新技術（自動運転等）への転換を急ぐべきだ
- ③ 維持困難な路線は、代替手段の確保を前提に縮小や廃止もやむを得ない
- ④ 何とも言えない・わからない

☐

問17 長野県は、2030年までに都道府県別の男女格差（ジェンダーギャップ）指数を「全国10位以内」に引き上げる目標を掲げています。今回の選挙結果を受けて、あなたは新しい県政下で、この目標がどの程度実現されると期待していますか。

- ① 大いに期待している
- ② ある程度期待している
- ③ あまり期待していない
- ④ まったく期待していない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

☐

問18 長野県知事に、特に求める資質や姿勢を2つまで選んでください。

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| ① 誠実さ・信頼感 | ⑥ 弱い立場への配慮 |
| ② 政策を実行する力 | ⑦ 将来像を示す力 |
| ③ 改革を進める力 | ⑧ 強いリーダーシップ |
| ④ 国との調整力・発信力 | ⑨ その他（ ） |
| ⑤ 市町村との連携力 | ⑩ 何とも言えない・わからない |

問19 長野県知事に今後求める県政運営の方向性として、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

- ① 現在の県政運営をおおむね継続してほしい
- ② 基本路線は維持しつつ、一部見直してほしい
- ③ 現在の県政運営を大きく転換してほしい
- ④ 何とも言えない・わからない

☐

問20 5選を果たした阿部守一知事の在任期間について、あなたの考えに近いものを選んでください。

- ① 実績が評価されているので、在任期間の長さは気にならない
- ② 今回の5期（通算20年）を最後（集大成）にしてほしい
- ③ 5期20年は長すぎる（多選は好ましくない）
- ④ 何とも言えない・わからない

☐

問21 あなたは、新たに知事に選ばれた阿部守一氏を支持しますか。支持しませんか。

- | | | |
|-----------------|---|-------------|
| ① 支持する | → | 問 22、問 24 へ |
| ② どちらかと言えば支持する | → | 問 22、問 24 へ |
| ③ どちらかと言えば支持しない | → | 問 23、問 24 へ |
| ④ 支持しない | → | 問 23、問 24 へ |
| ⑤ 何とも言えない・わからない | → | 問 24 へ |



問 22 (問 21 で「① 支持する」「② どちらかと言えば支持する」とお答えの方にお尋ねします)
支持する理由は何ですか。最もあてはまるものをお答えください。

- ① 大きな問題がないから
- ② 具体的成果を上げているから
- ③ 特色のある仕事をしているから
- ④ 将来像に期待できるから
- ⑤ その他（ ）



問23 (問21で「③ どちらかと言えば支持しない」「④ 支持しない」とお答えの方にお尋ねします)
支持しない理由は何ですか。最もあてはまるものをお答えください。

- ① 具体的成果を上げていないから
- ② 特色のある仕事をしていないから
- ③ 問題が目立つから
- ④ 多選（長期政権）だから
- ⑤ その他（ ）



(全員の方にお尋ねします)

問24 あなたは現在、どの政党・政治団体を支持していますか。

- | | |
|----------|------------------|
| ① 自民党 | ⑨ 共産党 |
| ② 中道改革連合 | ⑩ いのちの党（旧れいわ新選組） |
| ③ 日本維新の会 | ⑪ 減税日本・ゆうこく連合 |
| ④ 国民民主党 | ⑫ 日本保守党 |
| ⑤ 公明党 | ⑬ 社民党 |
| ⑥ 参政党 | ⑭ その他の政党・政治団体 |
| ⑦ 立憲民主党 | ⑮ 支持する政党はない |
| ⑧ チームみらい | ⑯ 何とも言えない・わからない |



F 1 あなたの性別 ① 男性 ② 女性 ③ その他・回答しない

F 2 あなたの年代 ① 10代 ⑤ 50代
② 20代 ⑥ 60代
③ 30代 ⑦ 70代
④ 40代 ⑧ 80代以上

F 3 あなたの職業 ① 事務系・技術系従事者 ⑥ 専業主婦・主夫
② 現業・サービス業系従事者 ⑦ パート・アルバイト
③ 役員・管理職・自由業 ⑧ 学生
④ 商工・自営業 ⑨ 無職
⑤ 農・林・漁業 ⑩ その他 ()

F 4 お住まいの地域性 ① 市街地 ② 近郊住宅地・郊外 ③ 農山村・中山間地

F 5 SNSの利用頻度

あなたは、X (旧 Twitter)、Instagram、Facebook、YouTube などの SNS を、
どのくらいの頻度で利用していますか。

- ① ほぼ毎日利用している
- ② 週に数回利用している
- ③ 月に数回利用している
- ④ ほとんど利用していない
- ⑤ まったく利用していない

F 6 現在の日本の社会の暮らし向きを6つに分けるとすれば、あなたの家庭は
どのあたりに入ると思いますか。

- ① 上の上 ② 上の下 ③ 中の上 ④ 中の下 ⑤ 下の上 ⑥ 下の下

本ホームページでは、報告書の一部を抜粋して掲載しています。長野県世論調査協会の会員の皆様には、報告書を郵送・電子メールでお届けしており、全ての調査結果をご覧くださいことができます。入会のお問い合わせは、[こちら](#)へどうぞ